

# 大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

## \*特集 新しい読書のかたち

吉川浩満 1

古くて新しい読書会

谷口忠大 9

本を知り人を知る、ビブリオバトル

海老原勇 16

電子読書共同体の創出

鈴木哲也 20

「専門外の専門書を読む」読書会——二一世紀市民の「教養教育」を大学出版部が担う

\*連載

中垣信夫 24

命の形「形」の命 No.04

大学出版部ニュース 26

No.103  
2015.7  
夏



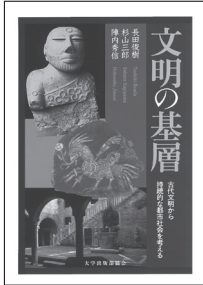
一般社団法人  
大学出版部協会

THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

# 大学出版部協会・ブックレット

大学出版部協会 発行／東京大学出版会 発売【2015年7月刊】

2014年5月に千代田区立日比谷図書文化館で開催された市民シンポジウム「文明の基層」(総合地球環境学研究所・京都大学学術出版会・大学出版部協会 主催／活字文化推進会議 後援)の内容をブックレット化しました。



長田俊樹 おさだとしき(総合地球環境学研究所名誉教授、神戸市外国語大学客員教授)  
杉山三郎 すぎやまささるう(愛知県立大学大学院特任教授、アリゾナ州立大学人類学学部教授)  
陣内秀信 じんないひでのぶ(法政大学デザイン工学部教授)

## 文明の基層

古代文明から持続的な都市社会を考える

A5判・80頁／定価(本体1,200円+税) ISBN978-4-13-003152-3

古代都市のイメージは大きく変わりつつある。インダス文明の諸都市のゆるやかなネットワーク、中米の古代最大都市テオティワカンでの新しい発見。人はなぜ都市を作ってきたのか、その歴史的基層を中世ヨーロッパのヴェネツィアと比較しながら、改めて都市の魅力と未来への可能性を探る。大学出版部協会ブックレット第3弾。

### 〈主要目次〉

第一章 インダス文明：ネットワーク都市——中央集権的文明観を覆す(長田俊樹)

「大河文明」は本当か?—広大なインダス文明/インダス文字とインダス印章/草原の遺跡、海岸沿いの遺跡—大河から離れて/砂漠の遺跡の謎/「城塞」と「パスポート」—都市ネットワーク論に向けて/墓から見えるもの—格差の不在/砂丘が先か、文明が先か/インダス文明は大河文明ではなかった—農業と水害の視点/古代文明観を見直す—「穀物倉」と「アーリア人侵入説」/文明の衰退について考える/ゆるやかなネットワークの存在/都市社会をどう見るか—中央集権的文明観からの解放

第二章 新世界最大の古代都市テオティワカン：英知の集積としての都市(杉山三郎)

閉ざされた空間の多様性/文明の萌芽/認知能力=知恵こそが、文明の基盤をなす/中規模都市がでか始める/完全計画都市、テオティワカン/多くの人を迎える巡礼地として/暦と数の体系/「太陽のピラミッド」と「月のピラミッド」の二元性/墓は語る/古代人の交流—物を集めるネットワーク/文明の確立から崩壊へ—伝わり、つながる文明の諸要素

第三章 水都ヴェネツィア：交易都市から文化都市へ(陣内秀信)

水と共生する町、ヴェネツィア/逆・中央集権的構造都市—複雑に交差する水と陸のネットワーク/都市を解読する/交易都市から文化都市へ/オリент志向と柔軟性/分散的都市から統合的都市へ/なぜ都市に人が集まるか/城壁の無い町/都市モデル再考/川が結ぶネットワーク/水車の活用/考古学調査がヴェネツィアのイメージを変える/ヴェネツィアの食と産物のネットワーク/ラグーナは自然・環境・歴史の宝庫—文化都市から環境都市へ

特集＊新しい読書のかたち

## 古くて新しい読書会

吉川浩満 (文筆家)

### 読書会ブーム？

二〇一五年四月一八日、私は日本最大級の読書会サークル「猫町倶楽部」<sup>1</sup>が主催する読書会に参加するため六本木に赴いた。昨秋上梓した拙著『理不尽な進化——遣伝子と運のあいだ』（朝日出版社）が課題図書に選ばれ、著者ゲストとしてお招きにあずかったのである。

もともと私は自他ともに認める読書会愛好家である。学生時代から数えて二十年以上の間、じつにたくさん読書会に参加してきた。ひとりで読むと挫けやすい私でも、仲間といっしょなら粘り強く続けることができる。これまでもずいぶんと助けられてきた。

そんなわけで読書会のことならよく知っているつもりであったのだが、猫町倶楽部には驚かされてしまった。まず会場がすごい。場所は東京都港区六本木に鎮座する東

京ミッドタウン。先端的な店舗や企業がひしめく眩しいエリアであり、読書のような地味な営みとは（また私のような地味な人間にも）縁のない土地だ。その読書会が、東京の街並みを一望するミッドタウン・タワー高層階の会議室で行われるのである。参加人数もすごい。拙著のようなマナー本を読むために、八五名もの人びとが参集した。こんな規模でまともな議論ができるのかと恐れたが心配は無用だった。参加者は数人ずつのテーブルに分けられ、各テーブルにはポランティアのファシリテーターがつく。議論がしやすいようにとの工夫である。終了後に居酒屋で開催された懇親会にも七〇名以上が参加し、周囲の客から「街コンですか？」と尋ねられるほどの盛況ぶりであった。

猫町倶楽部に参加して強く感じたのは、私たちのよく知る読書会のありかたが、いま大きく変わりつつあるのではないか、ということだ。その華やかな趣向に驚いたという



猫町倶楽部の読書会（2015年4月18日）。中央左が筆者

こともあるが、それはあくまで結果にすぎない。むしろ、このような趣向の読書会が好評をもって迎えられるような社会的条件の変化を見なければならぬ。思うにその背後には、私たちの生活環境、ことに情報環境——具体的にはSNSやビデオチャットなどインターネットのコミュニケーション系サービスの発達と普及——の変化がある。多くの参加者と議論し、懇親会で親交を深めるにつれて、その思いはいつそう強くなった。

実際、近年はちよつとした「読書会ブーム」のようである。昨年从今年にかけて、新聞や雑誌、ネット媒体などにおいて、各地で開催される読書会の活況を伝える記事が相次いでいる<sup>(3)</sup>。記事を読むと、書物を中心に人が集まり議論を交わすという基本は変わらないものの、SNSなどのツールのおかげで参加へのハードルがぐつと下がっているようである。

そこで本稿では、新たな情報技術の発達と普及が私たちの読書会文化にどのような影響を及ぼすのか、このことを一人の愛好家の視点から考えてみたい。読書会の文化は新たな情報環境のもとで今後ますます豊かさや多様性を増していくだろうと私は予感している。

まずは、そもそも読書会とはどのような営みであるかについて基本的な確認をしたい。しかる後に、あらためて読書会の現状に立ち返るとしよう。



江戸時代の読書会（『聖堂講釈図・寺子屋図』の一部、東京大学史料編纂所蔵模写）

15世紀『糸巻棒の福音書』に描かれた女性たちの読書会

## 読書会の歴史

読書会とはなにか。その定義を「集団で書物を読む」というくらい広くとれば、その歴史はほとんど書物の歴史と同じくらいに古いにちがいない。とはいえ、書物の知が特権階級の専有物であった時代と、曲がりなりにもそれが大衆化しつつある近代以降とでは、書物を読むという営み自体もまったく異なった意味をもつだろう。そのような歴史的な経緯を無視してはならない<sup>(3)</sup>。

また、ひとくちに近代以降といっても、文化や社会体制の違いによって、それはずいぶん異なるものになりうるだろう。たとえば、イラン出身の英文学者アーザル・ナフィーシーが活写するように、イスラーム革命下のイランにおいて女性たちがヨーロッパ文学を読もうとすれば、読書会はいやおうなく一種の秘密結社のようなものにならざるをえなかった<sup>(4)</sup>。かのドストエフスキーが逮捕され死刑宣告を受けたことで有名なペトラシエフスキー事件は、外務省の役人ペトラシエフスキーを中心とした「金曜日」という読書会の摘発であった<sup>(5)</sup>。日本においても、すでに江戸時代には儒学を学ぶ「会読」と呼ばれる読書会が全国で盛んに開催されていたことが知られている<sup>(6)</sup>。

このとおり読書会の歴史は興味深いエピソードに事欠かないのであるが、そこを掘り下げると別の論考になってしまう（興味のある向きは本稿の註に挙げた書物やウェブサイトを

に当たってほしい)。紙幅の都合もあるので、現代日本において実際に営まれている読書会へと話を戻そう。

### 読書会の条件——書物、個人、会合

現在行われている読書会を最大公約的に定義すれば、「書物を中心として、自由な諸個人が集まり、議論を交わす会合」とでもなるだろうか。

「書物を中心として」というのは、対象となる書物がなっていて、課題図書が決まっている場合もあれば勝手に持ち寄る場合もあるだろうが——とにかく書物がなければはじまらないという意味である(そうでなければ井戸端会議や飲み会と変わらない)。

「自由な諸個人が集まり」というのは、誰が参加するのであれ——友人同士であったり教師と生徒であったり、場合によっては赤の他人同士だったりするだろうが——それはあくまで個人の市民的自由にもとづくものでなければならぬ(そうでなければ監獄や学校と変わらない)。

「議論を交わす会合」というのは、やりかたやその成否はどうであれ——解釈の妥当性を争う場合もあれば感想を述べ合うだけの場合もあるだろうが——少なくともなんらかのコミュニケーションを試みられなければならないという意味である(そうでなければ会を催す意味がない)。

以上が、およそ読書会というものが成立するための条件

であろう。

### 読書会の機能——学び、遊び、交わり

読書会がそのようなものであるとして、では、それはどのような機能をもっているのだろうか。言い換えれば、どんな役に立つのだろうか。

読書会には大きく分けて三つの有益性があると私は考えている。「学び」「遊び」「交わり」である。会のスタイルによってそれぞれの割合は異なってくるにしても、どんな読書会もこれらを備えているように思う。

「学び」とは、いうまでもなく書物に収められた知に関する機能である。指導者に教えを乞いつつテキストを読むという大学ゼミや私塾のようなもの、あるいは学生や社会人が論文の執筆やビジネスへの応用を目的として集う勉強会などは、これを主眼として行われる読書会であろう。書物を読んで学習すること自体は一人でも可能であるが、他人の解釈や意見を聞くことによって蒙を啓かれることは多い。そもそも、知識を血肉化するには粘り強い努力が必要とされる。私などその典型だが、多くの人間はたったひとりで難解な書物と格闘する苦痛には耐えられない。それに、独学はえてしてトンデモ解釈の温床にもなる。集団で知恵を出し合う読書会であれば、適度な強制力と多様な意見によって、挫折とトンデモのリスクがかなりの程度避けられるのである。これこそ、書物を読書会というかたちで読む

ことの最大の意義であり、私が読書会に助けを求める理由である。

次に「遊び」。先の「学び」が知識の獲得と蓄積という目的に奉仕する機能だとすれば、これはなんらの目的にも奉仕しないコンサマトリー（自己充足的）な喜びである。

まず、志を同じくする仲間とともに学ぶというのは、それだけで楽しいものだ。また、読書会をしていると、書物の読解を通じてメンバーの思いがけない発言や意外な側面に触れたりする。さらには、自分が知らず知らずのうちに身につけてきた偏見や先入観——いわゆる「バカの壁」——が他人によって一撃のもとに突き崩されるという経験もする（優秀な意見が勉強になることは当然として、たとえ稚拙な意見であっても、バカの壁を突き崩し、新たな気づきを与えてくれるには十分である）。こうした、目から鱗が落ちる瞬間の驚き（恐怖となることもあるが）は、それ自体で十分に価値のある知的体験であり、何物にも代えがたい喜びである（そしてそれが後に新たな「学び」へとつながっていく）。こ

れも私が読書会を愛好する理由である。思うに、多くの碩学と呼ばれる人たちが功成り名を遂げてみなお読書会をづけるのは、（啓蒙や教育といった目的だけでなく）このような効能ゆえではないだろうか。

最後の「交わり」は、平たくいえば人間関係である。あくまで学習や研究を主眼とした読書会であったとしても、そこにはその会独特の人間関係が築かれる。趣味的な性質の強い読書会であれば、交わりはもつと軽やかで社交的なものになるかもしれない。あるいは、先に触れたナフィーシーやペトラシエフスキーの読書会のように、政治的信念や美学的信念によって集った場合には、構成員は同志的とも呼ばれうる強い絆で結ばれることだろう。どちらにせよ、人間が一箇所に集まれば（後に触れるように、ネットを利用してオンラインで行う読書会もあるが、それも集まりかたの形態である）、良きにつけ悪しきにつけ、そこには独特の共同性が立ち上がる。小説家カレン・ジョイ・ファウラーのメタフィクション／ブッククラブ小説というべき『ジェ

## 世界経済史概観

紀元1年〜2030年

アンガスマン／公財政治経済研究所  
長期経済推計に基づいて、二〇〇〇年  
にわたる世界経済史の輪郭を描き、  
来るべき二〇三〇年の世界経済を予  
測する。

A5判・本体7400円

## 白居易と柳宗元

混迷の世に生の讃歌を

下定雅弘

対照的な運命を辿った詩人の心の軌  
跡を詩文の平易な現代語訳で味わい、  
二人を支えたものについて考える。

【岩波現代全書 四六判・本体2400円】

岩波文庫

### 中国史(上)

宮崎市定 解説・注・井上裕正  
平易な文章、明快な論理…  
中国通史の傑作。  
本体900円・1020円

### チベット仏教王伝

—ソナムツェン・ガンボ物語—  
ソナム・ギェルツェン／今枝由郎 監訳  
今も人々の心に生きる「チベ  
ットの古事記」。 本体1020円

### 古代懷疑主義入門

—判断保留の十の方式—  
J.アナス、J.バーンス／金山弥平 訳  
本格的でありながら分かりやす  
く書かれた入門書。 本体1320円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋  
(定価は表示価格+税)

http://www.iwanami.co.jp/

イン・オースティンの読書会』は、課題図書であるオースティンの作品が参加者たちの人間関係をもつくりかえていくさまを軽妙に描いている(7)。人間集団というものは非常に微妙なバランスで成り立つものであるから、もちろん、いいことばかりとはかぎらない。交わりの不具合によって会が瓦解してしまうこともある(私にも読書会の崩壊を経験した苦い思い出がある(8))。それでもなお読書会が得がたい場所であるのは、それが社会学者レイ・オルデンバーグのいう「サード・プレイス」のようなものを提供してくれるからだ(9)。人が精神的に豊かな生活を送るためには、家庭(ファースト・プレイス)と職場(セカンド・プレイス)だけでなく、第三の、創造的な交流が生まれる場所(サード・プレイス)を必要とする。オルデンバーグが想定しているのは気安く集うことのできる地元のカフェや飲み屋のような場所だが、読書会もまた、(たとえそこがときにはシビアナ鍛錬の場となるにしても)まさにそのような機能を提供してくれる場所なのである。私が読書会から足を洗うことができない理由もここにある。

読書会の文化が私たちに提供してくれる有益性は以上のとおりである。

### 読書会と情報技術

それでは、読書会と新しい情報技術との関係に話題を移そう。

読書と情報技術の関係を考える際に真っ先に話題になるのは、書物の電子化をはじめとしたメディアの多様化とそれにともなう出版産業の再編(多くの場合は衰退)であろう。これはたしかに大きな問題ではあるが、読書会のありかたにはそれほど(悪)影響を与えないのではないかと私は考えている(そもそも「硬派」あるいは「専門的」な出版社や出版物の衰退は日本だけでなくアメリカなどでもすでに一九八〇年代からはじまっていることを考えると、これは情報技術の発達にのみ関わる問題ではない。もっと大きな文明的な視野から考える必要があるだろう(10))。理由は単純で、読書会のために供されている資源は、紙であれ電子であれ過去の書物文化の全体であるからだ。

むしろ、SNSなどのコミュニティ系サーヴィスが発達・普及した現在ほど、読書会のやりやすい時代はない。これも理由は単純である。多くの主催者が感じていることであるが、なにより人が集いやすいのである。メンバーを募集したり、連絡をとりあつたりするのが容易になったというだけの話ではない。SNSの登場により、ネット上のサーヴィスは単なる連絡手段であることを超えて、それ自体で十分な機能をもつ「サード・プレイス」の要件を満たす存在になったということだ。ネット産業の群雄割拠状況はあいかわらずだが、コミュニティ系サーヴィスが実用的なものになってすでに一〇年が経ち、各種の機能も十分に成熟している。こうしたサーヴィスがもたらす帰属感は、



読書会への継続的参加へのモチベーションを高める効果があるだろう。

とはいえ、必ずしも読書会自体をネット上で行う必要はない。私がつとも愛好する読書会は、喫茶店や会議室のテーブルを囲み、課題図書を手膝を交えて議論するという昔ながらのスタイルのだが、それでうまくいっているのなら変える必要もないだろう。実際、SNSによってコミュニケーションへの帰属感を維持しながら読書会そのものは旧態依然たる現場主義を貫くという合わせ技こそ、現在の読書会の王道だと私は思う。

もちろん、ネット上のコミュニケーション系サービスの機能そのものを利用した読書会もあちこちで行われている。なかでも、ビデオ通話／チャットの実用性はすでに企業や教育機関などにおいて実証済みであり、導入のハードルは低い。また「Twitter」などでは、もつと手軽で気楽なテキストベースでの読書会も行われている。これは読書会ならずともネット系サービスの登場した際に散々いわれたことだが、

## ヘイト・スピーチという危害

ウォルドロン ヘイト・スピーチは社会の何を壊すのか。表現の自由との相克の中で、法規制の道を探る。谷澤・川岸訳 ¥4000

## 北朝鮮の核心

そのロジックと国際社会の課題

ランコフ 長期的に不可避の崩壊を見すえ、何が可能か。今年改訂の最も充実した北朝鮮論。山岡由美訳 李鍾元解説 ¥4600

## ファルマゲドン

背信の医薬

ヒーリー 『抗うつ薬の功罪』の著者がグローバル製薬産業に掌握された医療の構造問題を詳述。田島治監訳 中里京子訳 ¥4000

## キャプテン・クックの列聖

太平洋におけるヨーロッパ神話の生成

オペーサーカラ ハワイの発見者クックとは何者か。文明と野蛮の定義を覆し人類学最大の論争を呼んだ書。中村忠男訳 ¥6800

## 近代デザインの美学

高安啓介 デザインにおける鍵概念「近代／モダン」はどう定義できるか。デザイン用語の再検討を通しその内実を探る。¥3800

## グローバリゼーションと惑星的想像力

恐怖と癒しの修辞学

下河辺美知子 グローバリゼーションとテロ。今日の世界を席巻する課題に人文学はどう向き合っているか。理解し、応答するか。¥3800

## 丸山眞実話文集 続4

[完結]

最後の「ダバリング」を筆頭に最晩年の座談、スピーチほか収録。巻末に埴谷雄高宛など書簡144通。丸山眞実手帖の会編 ¥5800



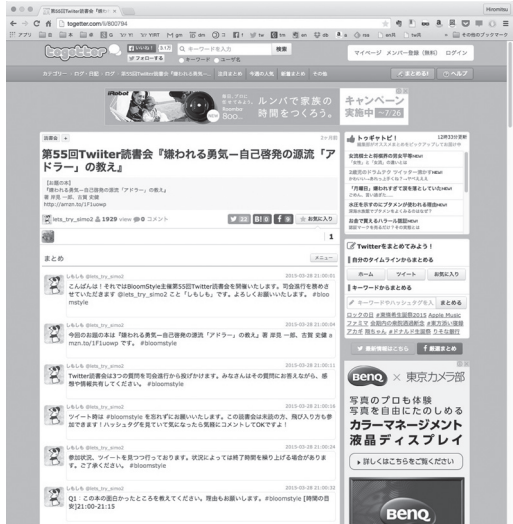
東京文京本郷5丁目32-21 **みすず書房**  
tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税別)  
http://www.msz.co.jp

メンバーが遠隔地にいる場合や、開催時間がお店の開いていない深夜になる場合などには非常に便利である。

### 読書会の未来は明るい

以上のように、情報技術の進展はネット上のコミュニケーション系サービスの成熟を通して、読書会が元来もっていた「交わり」の機能をより豊かにすることに貢献している。それは読書会の要であるメンバーの探しやすさ、集めやすさ、定着しやすさを増幅するのである。そして、この「交わり」の豊かさと同様化は、ほかのふたつの機能である「学び」と「遊び」にも影響を与えずにはおかないだろう。

私の知るかぎりでも、従来はあまり見かけなかったようなスタイルの読書会がいくつも出現している。冒頭で触れた猫町倶楽部は、伝統的なビジネス系勉強会に加え、課題図書に合わせたドレスコードを設定するなど遊び心のあるパーティー型の読書会を開催している(このようなマニアックな会にはSNSを通じて募集が不可欠である)。谷口忠



Twitter上の読書会（Bloomstyle主催）

大氏が提唱して話題になったビブリオバトルも、「学び」と「遊び」の要素を巧みに融合した新しいスタイルの読書会といえるだろう（シヨリの性格の強いビブリオバトルは、その普及にあたってネット中継が非常に効果的であった）。

このようにして、いまや私たちの読書会文化は、ある会では何年もかけて哲学の古典を読み、別の会ではネット上で一晩かぎりのチャットに興じ、そのまた別の会では課題図書にちなんだコスプレに身を包んで出かけるといった、多様な楽しみかたを許容するものになった。暗いニュースの多い近年の出版業界だが、こうした読書会文化の好まし

い動向が、出版社や書店・図書館とも手を携えて、私たちの読書文化全体をより豊かにしてくれることを期待している。

- (1) 猫町倶楽部 <http://www.nekomachi-club.com/>
- (2) 「静かなブーム、読書会の魅力って？」日本経済新聞、二〇一四年一〇月四日／「読書会ブームが来た！」、週刊エコノミスト、毎日新聞出版、二〇一五年二月三〇日・二月六日迎春合併号、など
- (3) アルベルト・マンゲル『読書の歴史——あるいは読者の歴史』原田範行訳、柏書房、二〇一三／ロジェ・シャルチエ、グリエルモ・カヴァッロ『読むことの歴史——ヨーロッパ読書史』田村毅ほか訳、大修館書店、二〇〇〇
- (4) アーザル・ナファイシー『テヘランでロリータを読む』市川恵里訳、白水社、二〇〇六
- (5) 小泉猛、原卓也編訳『ドストエフスキーとペトラシエフスキー事件』集英社、一九七一
- (6) 前田勉『江戸の読書会——会読の思想史』平凡社、二〇一二
- (7) カレン・ジョイ・ファウラー『ジェイン・オースティンの読書会』中野康司訳、ちくま文庫、二〇一三／吉田新一郎『読書がさらに楽しくなるブッククラブ——読書会より面白く、人とつながる学びの深さ』新評論、二〇一三
- (8) 吉川浩滿『消えていった、世界の起源』、『未来 特集』読書特集2007 本とともにある場所——記憶に残る読書会《アンケータ》未来社、二〇〇七年四月号
- (9) レイ・オルデンバーグ『サードブレイス——コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』忠平美幸訳、みすず書房、二〇一三
- (10) 赤木昭夫『書籍文化の未来——電子本か印刷本か』岩波ブックレット、二〇一三

特集＊新しい読書のかたち

## 本を知り人を知る、ビブリオバトル

谷口忠大 (立命館大学准教授)

### 書籍というメディアの二重性

書籍は必ずしも一人で読むものではない。書籍を読むという体験は、共有されることでさらなる理解やコミュニケーションへと発展する。書籍は著者と読者をつなぐコミュニケーションメディアであるだけでなく、読者と読者をつなぐコミュニケーションメディアでもあるのだ。

もちろん物理的な意味、狭い意味においては、書籍は一人で読むものだ。二人で一冊を同時に読んでも読みにくいだけだし、自分で読んだ文しか頭には入ってこない。二人で分担して読んでも、速度が二倍に上がるわけではない。だからといって「読書」が必然的に孤独な旅路かといえば、それは違う。それぞれ別の人間によってなされた読書体験は、読者同士がその本に関するコミュニケーションをはかること、つまり、本を紹介しあったり、本に書かれていた

内容に関して語り合ったりすることによって、横方向に展開されていく。

書籍とはそもそも著者が読者に語る言葉である。論説的な専門書、学術的なテキストならば当然にして著者の伝えたい知識や考え方がある。文学作品なら著者が語る世界がある。まずもって、そもそも読書はこの意味において孤独ではない。本は知識を運ぶ。このことは読者の中に新たな世界の見方を作り出すことを意味する。しかし、それはヒッソリとしたものである。読書による変化は外部からは分からない。読書体験は著者から読者に縦方向に展開されていく。人は本を読み知識を得て、変わっていく。読書とは個人にとって情報の組織化過程であり、その組織化された情報自体がその人の「人となり」の一部を形作っていく。

この著者と読者を縦方向につなぎ、読者と読者を横方向につなぎ、本の持つ性質を「書籍のメディアとしての二重

性」と呼んでいる。しばしば僕たちは本について語りたくなる。「あの本のここが良かった」「オレ、あの本好きだわ」「〇〇はこの政治的事態に対して△△と言ってるんだけど、僕は賛成したくないな」「〇〇の主人公にメッチャ共感した。おれも部活本当にシンドイんだけどさ。わかるわ、あの気持ち」「量子力学学ぶならこの本しか無い」「えー、是非、この本を読んでみなさんも某エディタのユーザになりましょう」などなど。

本についての語りは知識についての語りであるとともに、自分自身についての語りにもなる。それゆえに、本についての語りは際限がない。人は往々にして自らの考えを知ってほしいと思うものであるし、自分の知識をシェアしたいという根源的な欲求を持っているようだ。そしてそれを聞いてもらうことは、自分自身を知ってもらうことでもあると、どこかで気づいている。ある種の承認欲求が僕達の本についての語りを加速させる。本について語る側が知らず知らずの内に自らについて語っているという事実は、逆から見れば本について語られている側が語る人の「人となり」について知っていくことも示している。

しかし、この「書籍のメディアとしての二重性」は日常生活の中で必ずしも表面化しない。先にも述べたとおり読書は個人的な営みであり、「ひっそり」としたものである。それゆえに、誰がどんな本を読んでいるのか明らかにする機会は少ないし、また、面白い本があってもそれが周囲の

潜在的な読者へと展開される機会も少ない。このような「書籍のメディアとしての二重性」を顕在化させるゲームとして現在注目されているのが「ビブリオバトル」である。

## ビブリオバトル

ビブリオバトルは二〇一〇年ごろから徐々に日本全国に広がってきた書評ゲームである。詳しくは『ビブリオバトル 本を知り人を知る書評ゲーム』（文春新書）を参照されたいが、以下がビブリオバトルの公式ルールである。

- 1 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- 2 順番に一人五分間で本を紹介する。
- 3 それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを二〜三分行う。
- 4 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなかったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。

このルールを守って遊ぶだけで、大抵の場合、ビブリオバトルが持つ面白さとそのメリットを体感することができ。ビブリオバトルは公式ルールを守りさえすれば、だれでも開催して構わない。ビブリオバトルといえど一本



ビブリオバトルを楽しむ様子

(biblio)の戦い (battle)」ということと、本を使ってバトルすれば何でもビブリオバトルだと思ってしまいう人もいますが、それは違う。右の四項目のルールには、ゲームとしてのバランスと様々な機能が圧縮されて詰め込まれており、このままのルールで遊んだものだけがビブリオバトルと呼ばれる。日本全国に広まっているビブリオバトルであるが、それが広まっている理由の一つは、ビブリオバトルが何か単一の目的のためだけにあるものではなく、多様な魅力や機能を持っているからだろう。だからこそ、いろんな参加者を巻き込み、愛好家を生みつつけている。読書を好きでない人ですら、ビブリオバトルを好きな人は居る。ビブリオバトルの主な機能としては以下の四つが挙げられる。

- ①書籍情報共有機能「参加者で本の内容を共有できる」
- ②スピーチ能力向上機能「スピーチの訓練になる」
- ③良書探索機能「いい本が見つかる」
- ④コミュニティ開発機能「お互いの理解が深まる」

これらの機能が分かちがたく発揮されることで、ビブリオバトルを体験した多くの人は「またやりたい」と口にするのだ。

ビブリオバトルの歴史は僕自身がこのルールを作り、京都大学の某研究室において研究室のメンバー四、五人で遊

び始めた二〇〇七年に遡る。自分たちが遊ぶ中で、その面白さ、効果に気づいていき、世の中に広めることに対しての社会的意義を感じるようになった。その後二〇一〇年春に少数のメンバーでビブリオバトル普及委員会を発足させ、徐々に日本全国へと普及していった。大学に関して言えば、二〇一〇年冬には東京都主催で初めての大規模な大学生のビブリオバトルの大会である「ビブリオバトル首都決戦」が開催され、その後、全国に数多くの予選を持つ全国大会としての地位を固めていった。二〇一四年には主催が活字文化推進会議（主管 読売新聞社）になり「全国大学ビブリオバトル」として発展的に継承されていっている。大学内の開催に関しては、すでに日本国内二一六大学以上においてビブリオバトルに開催が確認されている（ビブリオバトル普及委員会調べ、二〇一五年四月二十四日現在）。この数字は日本の大学全体の二十七パーセントに相当する。

ビブリオバトルのイベントやその活用はどんどん増えており、図書館、カフェ、小中学校、高校、社員研修、IT勉強会、読書会、地域イベントなどと活用の幅に限りがない。しばしばメディア報道などもなされるが、そういう「とりあげられるもの」にはある種の偏りがある。特に、高校生大会や大学生大会、大型書店でのイベントなど、イベントとしての姿が報道される場合が多いので、ビブリオバトルは「オープンな書籍系イベント」だと認識している人も少なくない。しかし、もともとビブリオバトルはクローズ

ドな仲間内でやる「情報交換会」のようなニュアンスがある。

また、二〇一三年頃から、小中高校の教育現場でのビブリオバトルの活用が急速に拡大している。二〇一三年五月には「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（文部科学省）が閣議決定されたが、そのなかにおいてビブリオバトルは

また、書評合戦（ビブリオバトル）とは、各自が本を持ち寄って集まり、本の面白さについて5分程度でプレゼンテーションし合い、一番読みたくなった本を参加者の多数決で決定する書評会であり、大学、地方公共団体、図書館等で広がりがつつあるが、こうした取組が全国に普及することが望まれる。

と、言及された。これを受けて各地方自治体、教育委員会はそれぞれにビブリオバトルの活用を検討し、各学校での導入が進んでいる。その際には「読書推進」「読む力をつける」「プレゼンテーション能力を身につける」といったような、教育的文脈に引きずられることが多く、どうしても「読書感想文の発表会」のような雰囲気になってしまいがちである。しかしやはり、ビブリオバトルの最も重要なところは、それがゲームであることにある。ゲームであるからこそ、参加者一人ひとりのモチベーションが掻き立て

られ、それがその場にいい影響を与えるのである。

## 大学で始まったビプリオバトル

ビプリオバトルが生まれた京都大学は「自由の学風」で有名である。学生は勉強したいものを勉強したいように勉強する。読みたい本を読む。ビプリオバトルの誕生の経緯はそういうマインドと分かち難くつながっている。

当時、機械系の研究室で博士号の学位をとった僕は、ポスドク研究員として共生システム論研究室（片井研）という研究室に所属していた。機械系の研究室での研究についても、僕自身の研究はある意味独特で、学位論文の題目は「環境との相互作用に基づく自律適応系の構成論的研究」という大変曖昧なものであった。この内容は増補の上、『コミュニケーションするロボットは創れるか 記号創発システムへの構成論的アプローチ』（NIT出版）として出版されている。このひと通りの仕事を終え、僕自身は新しい研究アプローチを探していた。その研究アプローチを探索

する中で、組織論、経営学、社会学、コミュニケーションなどといった領域のことについて勉強したいと考えていた。

当時の研究室の教授は大変博識ではあったものの、決してそれらの分野に関して専門家というわけでは無かった。しかし、僕自身もともと「自分の勉強したいことを勉強する」というマインドが強かったので、僕自身にはそれは「大きな問題」ではなかった。

さて、「僕の勉強したいこと」に共鳴してくれた、研究室の後輩たちと勉強会を立ち上げることになった。しかし、ここで「自分の勉強したいことを勉強する」人間にとっての弱点が現れた。それは、「教科書を選べない」という問題だった。つまり、まだ知らないことを勉強する上で、どんな本を読んだらいいのかわからないのだ。もちろん、自分で探すべきなのだろうが、一人で探してもなかなか埒があかない。そこで、僕が考えたのは

## 高橋一行著

A5判・二八六頁・本体二八〇〇円

## 他者の所有

パラー、レヴィナス、マラー、ジジクとの関わりからヘーゲルの可能性に迫る。ヘーゲルを最後のヘーゲル批判の創始者なのである。

ドウルシラコーネル著／吉良貴之・仲正昌樹監訳 本体四〇〇〇円

## 自由の道徳的イメージ

古典的テキストのラディカルな読解で西欧の「自由と道徳」を脱構築し、「世界」と「主体」が絶えず組み替えられる「マシナリーな領域」を開く。

## 関下 稔著

菊判三〇四頁・本体三八〇〇円

## 米中政治経済論

貿易・投資・技術革新・知財・通貨・安全保障に焦点を当て、対立と妥協の相互関係を検討し、このスーパースピリットの内幕を描く。

## 朴 根好著

A5判・三五二頁・本体五〇〇〇円

## 韓国経済発展論

高度成長の見えざる手  
アメリカの政策により南アジア（インド）から東アジア（韓国へ）という、アジア間（起）つた「経済成長の重心移動」を比較経済発展論の手法で分析。

## 御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20  
電話03-5684-0751  
http://www.ochanomizushobo.co.jp/

「みんな得手分けして本を探す」

ということだった。僕自身は先生でもなんでもない。限られた知識と情報しか持たない人間である。それは、他の後輩にとっても同じことである。また、失礼かもしれないが教授の先生でも程度の差はあれ、同じことである。では、だれかが一方的に決めた本で勉強をするのではなく、みんなが読むべき本を提案した後で、勉強会に参加するメンバーにとって「最も読みたくなる本」を選ぶというのはどうだろうか。しかし、この一冊を選ぶ時に話し合いで決めたのでは、持ってきてくれた人の心の内を押し量つたりして、なかなか決まらない会議になってしまう、そう。そこはサッパリしたかった。また、サッパリさせることでゲーム性も生まれるだろうと考えた。そこで、一人五分でプレゼンし、その後、質疑応答を行った後に、最後に単純に多数決で「チャンプ本」を選ぶという形式のゲームを考えた。これが現在のビブリオバトルの始まりである。

ビブリオバトルの本質を語るときに、今ならば便利なキーワードがいくつもある。一つが集合知であり、もう一つがゲーミフィケーションだ。

集合知とは個々人に分散して存在する知識や情報を活用して得られる知識や情報のことを指す。インターネットの普及に伴い、Wikipedia や Amazon の書籍推薦など様々なところで注目されている。例えば、投票による多数決や、競

馬のオッズが勝利馬のよい予測になっているのも集合知の頭れである。ビブリオバトルは「チャンプ本」の決定において多数決を使うが、そもそも、その場に「どんな本を持ってくるか？」という選書の段階で個々人の知識や情報をフル活用している。つまり、ビブリオバトルは組織において分散的に存在する書籍に関する知識や情報をビブリオバトルという場に提出させて、その中でチャンプ本を選ぶことで大量の書籍群から「そのコミュニティに合った本」を浮かび上がらせてくる集合知メカニズムになっているのだ。

しかし、一方で、各参加者がそこに良い本を持つてくるかどうか、また、皆にわかりやすく説明するかどうかは、保証できない。ここでゲーミフィケーションが導入される。ゲーミフィケーションとは本来ゲームでない活動にゲーム性を持たせることで、参加者のモチベーションを高め主体的な活動を活性化させる方法である。「チャンプ本」の登場によりその場がゲーム化される。もし、参加者それぞれが「チャンプ本」獲りたいねん! というモチベーションを持つて、このゲームに乗っかってくれれば、全てが動き出すのだ。各メンバーは「チャンプ本」を獲るために、ライバルに勝つために、「みんなが読みたくなる本」をみずからの知識と情報をフル稼働させて一生懸命探してくるわけである。



## 自分自身の好奇心を満たすためのビブリオバトル

ビブリオバトルは確かに読書量を増大させる。僕自身、研究室でビブリオバトルをやっていた際に「『チャンプ本』獲りたいねん！」が加速しすぎて、大量の本を読んだ気がする。その時期に出会った多くの本に、未だに、僕自身の教養や研究活動は支えられている。純粋な好奇心や自発的な学習意欲、他者と情報をシェアし議論し、知識を深めて行きたい人間にとってはビブリオバトルは格好のツールになるだろう。ただし、そうでない人間にとっては、ビブリオバトルが発揮する力は弱い。参加者がゲームに乗っかり、「チャンプ本」獲りたいねん！」というモチベーションと共に、自らが持つ知識と情報をフル稼働させてくれない限り、ビブリオバトルのエンジンは回らない。

最近、「一番楽しいビブリオバトルはどんなビブリオバトルか？」という質問をいただくことがある。そういうときは「大人がやる大人げないビブリオバトル」と答えてい

る。十分な知識と好奇心、そして、ゲームに乗っかり負けがらない大人気なさ。これらこそがビブリオバトルのポテンシャルを最大限に高め、「書籍のメディアとしての二重性」を顕在化させる。

さて、大学は最高学府と呼ばれる。大学に在籍する者は「学びたい」という意欲を当然にして持っているはずである。しかし、個々人の心の内にある、知識や情報、情熱や好奇心は個々の閉じた認識世界の中で、離れ離れに存在し連環を持たない。サークル、研究室、同好会、飲み友達、なんでも構わない。その一つ一つのセルの中で、「書籍のメディアとしての二重性」が顕在化され、それぞれの知的好奇心に駆動された知識獲得のダイナミクスが動き出すことができれば、きっと大学はもっと楽しい場所になれるだろう。そのような大学における知的活動を加速させるトリガーの役割を、ビブリオバトルが担えればこれにまさる喜びはない。

## 東北のルーツを見つめ直し 新たな“北”の歴史像を描く 【企画編集委員】柳原敏昭・熊谷公男 東北の中世史 全5巻

6月刊行開始

各2400円

『内容案内』送呈  
※6月より隔月に  
1冊ずつ配本予定



### ●平泉の光芒

柳原敏昭編 日本初の武士の都。  
中世東北の扉を開けた平泉藤原氏  
の実像に迫る。(第1回配本)

### 古代をあゆむ

笹山晴生著 九つのテーマで語る  
古代史の愉しみ。2500円

### 石谷家文書

将軍側近のみた  
浅利尚民編  
内池英樹編  
戦国乱世  
注目の本能寺の変前後の書状など、貴重な新出史料。1800円

### 百貨店で(趣味)を買う

神野由紀著 大衆消費文化の近代  
「良い趣味」の大衆化! 2500円

### 地域のなかの軍隊 全9巻

既刊各2800円 『内容案内』送呈

### ■帝国支配の最前線

植民地 坂本悠一編  
日本軍は植民地に何をもたらしたか。

### ■日本の軍隊を知る

基礎知識編  
荒川章二・河西英通・坂根嘉弘  
坂本悠一・原田敬一 編  
軍隊を考えるための知識を集成。

### 黑板勝美の思い出と 私たちの歴史探究

黑板伸夫・永井路子編 戦前の大  
歴史家の実像を語る。2500円

### 吉川弘文館

〒113-0033 東京文京区本郷7-2-8  
電話03-3813-9151 / 価格は税別  
2015年版「出版図書目録」送呈

特集\*新しい読書のかたち

## 電子読書共同体の創出

海老原勇 (筑摩書房)

電子書籍の刊行点数は着実に増えている。電車に乗れば携帯電話で漫画を読む人、タブレットで新聞を読む人を当たり前のように見かけるようになり、読書のあり方は急速に多様化している。

筆者は出版界に身を置く一介の出版人だが、一般に出版人は読書人でもある。読書人は本好きであるがゆえに、しばしば「紙の本があれば十分」と考える。実際、筆者も最近まで無意識のうちにそう考えていた。けれどもこれだけ多様化した読書の現状に目を向けず、自己をかたくなに閉ざしたままでいるのが健全な態度なのだろうか。

そんなことを考えるようになった折、ある読書会に誘われて参加することになった。出版関係者によるごく少人数の読書会で、電子書籍をデジタル環境のもとで読み、本についての理解を深めるだけでなく電子読書のあり方や可能性についても考える、言わば「デジタル読書研究会」であ

る。本稿ではその研究会でどのように読書会が行われたのか、そして読書をめぐる拙い私見を紹介したい<sup>(1)</sup>。

### 読書方法について

読書会は市販の電子書籍でなく会で独自にPDF形式のファイルを用意し、また独自の読書支援ツール——通称 ウーウエイ **UuWei** (無為) —— を使って行われた。

テキストは『丸山眞男講義録 第六冊』(東京大学出版会)の第三章「幕藩体制の精神構造」である<sup>(2)</sup>。参加者各自が紙の本を購入したうえで出版社の了解を得てスキャンし、当該章をPDF化して使用した。

**UuWei** はこの読書会のために独自に開発された(とどうか読書会を通じて開発中の)読書支援ツールで、インターネット上で読書ノートを作ることができる。いわゆる「マインドマップ」のような図をノート(=PCの画面)に描

いて本の内容をまとめる以外にも、ウェブサイトやネット上のPDF文書のなかに気になる部分があれば、そこを自動的に抽出してノートに書き込んでくれる「引用」機能がある。さらに、「引用」箇所に限らずこのノートに書き込んだすべての文字をテキストデータ化する機能も付いており、それを使えばレポートや論文を書くことも簡単にできる。

気になる部分を抜き書きし、調べたことを書き記す――要するに従来、紙とペンを使って行われていた読書ノートの作成がこのWuweiならオンラインでできるということだ。大きな特長はやはり「引用」機能が付いている点にある。紙の本に線を引いたり付箋を貼ったりしながら読み進める感覚に近いけれども、その部分を読書ノートへ自動的に抜き書きしてくれるので、それを再編集しながら読み返せば極めて丁寧な読解が可能となる。ただし、言うまでもなくWuweiでの「引用」行為は手を使って書き写す本来の引用とは根本的に異なる。安易なコピー&ペーストに堕さないためには、「何のための引用か」とつねに自問し続けなければならない。

### 『丸山眞男講義録』をどう読んだか

さて、以上の環境のもとで『講義録』をどう読んだか。読書ノートのつけ方は参加者によってさまざま、まさに個性が出るので互いに見比べるのも面白いが、筆者の場合は

「引用」機能を活用しつつまずは丸山の文章を忠実に読み、そこから発見できる問題点は何か、という意識をもって読むことを心がけた。

『丸山眞男講義録 第六冊』は丸山が一九六六年度に東京大学で行った日本政治思想史の講義が収められており、そのうちの第三章「幕藩体制の精神構造」では、二六〇年にわたる安定的な政治体制がいかに確立されたかを彼は究明しようとしている。筆者はまず、丸山が「時代精神」や「精神構造」なるものに言及している箇所に注目し、重要と思われる記述を「引用」機能でWuweiの読書ノートに書き写していった。当然これだけではただの寄せ集めに過ぎないので、この章を読み終えたところでそれぞれの引用を線で結び、不要なものがあれば削除する、という過程を経て自分なりに丸山の論旨を再構成していく。

こういう作業をしていると自ずと自分なりの問題点が浮かび上がってくるもので、筆者の場合には「そもそも封建制とは何か」という点が気になった。この講義では封建制についてわずかに言及はあるものの、封建制そのものは議論の対象になっていない。

そこで他の年の講義で何か述べてないかと思つて「総索引」を調べてみると、一九四八年度の講義の中で封建制を論じていることがわかった。これは『講義録 第一冊』に収められていて、冒頭の「開講の辞」では、戦後間もない日本においては封建制は歴史的遺物などではなく、「社会

のあらゆる部面での根強く残存する封建制の克服が必須の課題として要請されている」(『第一冊』七ページ)と述べられている。さらに思想史の方法を問題にして、「いかなる歴史的認識も一つの自己認識である」(同ページ)ことが強調され、過去の洞察を現代の自己批判につなげることの重要性が説かれている。第六冊のときと同じように気になる箇所をノートに書き留めていくが、この時点で筆者の関心は封建制の問題から思想史の方法論へとさらに広がり、『忠誠と反逆』(ちくま学芸文庫、一九九八年)に収められた「思想史の考え方について」(初出は一九六一年)と題された一章がここにつながってくる——こうして読書は講義録のひとつの章から始まり、他の年の講義へ、そして他の著作へと広がっていく。

このような読書や考察はもちろん、紙の書籍でも不可能ではない。しかしデジタル環境で読書ノートをつければ加筆や修正が容易にできるので、自分で考えながら丸山の論旨を効率的に再構成し、さらには別の資料の情報を付加しつつその全体を整理することができる。筆者自身、当初は予想していなかった方向へ読書が広がり、意想外の思考の展開を愉快とすら感じたのだった。

### 新しい読書共同体Ⅱ開かれた精神に向けて

このように「デジタル読書研究会」に参加してみても筆者が思いをめぐらせたのは、「開かれた読書」の可能性につ

いてであった。あるいはもっと普遍的に、「開かれた自己」、「開かれた精神」と言ってもよい。

まず、読書空間は一冊の本ごとに閉じているのではない。本は相互に共鳴し合い、繋がり合っている。読者は一冊の本を読んだとき、関連する書籍を繙いたり調べたりしたいと思うもので、そういう欲求は電子的環境においても変わりはない。現在の一般的な電子書籍・電子読書は広がりを求める思考の欲求を十分満たし得ると言えるだろうか。

もうひとつ、読書する人間もまた一人ごとに閉じているのではない。適切な読書案内やレファレンスをコンピューターが行ってくれる日が早晩到来するにしても、人間同士の刺戟や啓発が無意味になるわけではない。一冊の書物を共に読み、内容について議論する仲間がいるということは、理解を深めるためにも、また読書の世界を広げるためにも不可欠ではなからうか。読書会の文化は衰退の一途を辿っているように見受けられるが、電子的環境における新たな読書共同体のあり方を想像(創造)することは可能だろうか。

\*

かつてショーペンハウアーは「読書とは他人にものを考えてもらうことである」と述べたが、そういう読書に甘んじる読者はドグマティストである、と筆者は思う。思考の広がりを求めるとき、人は自ずと懐疑主義者になるものだ。日本語で「私はあなたの意見には懐疑的だ」などと言うと

# 藤原書店

サルトル伝 1905-1980

④⑤

A・コーエン=ソラル 11カ国語に翻訳された国際的ベストセラー、決定版。石崎晴己訳 各3600円

増補  
新版 資本主義の世界史  
1500-2010

M・ボー 「資本主義500年史」を描く名著、待望の増補決定版。  
筆宝康之・勝俣誠訳 5800円

石牟礼道子全句集  
泣きなが原

幻の句集『天』が甦る！半世紀間の全句。解説：黒田杏子 2500円

名伯楽

粕谷一希の世界

塩野七生、芳賀徹他 時代と切り結んだ名ジャーナリストの“人”と“仕事”を67名が描く。 2800円

老子に学ぶ

大器晩成とは何か

上野浩道 将来の“大器”たちへ。教えること、学ぶこと、育てることの根源的意味。 1800円

●ご愛読の皆様へ御礼申し上げます

学芸総合誌 季刊 **環** 歴史環境文明

vol. 61 2015年春号

〈第1期終刊〉

(25周年記念)高銀、石牟礼道子、小倉和夫、川勝平太、ル=ロワ=ラデュリ、コルバン他(今なぜ石牟礼道子か)池澤夏樹、高橋源一郎、町田康他

〈付『環』0~60号 総目次〉 3600円

月刊 **機**

B6変32頁 5月号 No. 278  
高銀/池澤夏樹/ボ  
ー/黒田杏子/穴井  
太/新田純子/小倉  
和夫/中村桂子/山崎陽子/尾形  
明子/加藤晴久/大沢文夫 15。

年間購読料 2000円(送料込) ©見本誌・ブックガイド呈 \*表示価格税抜  
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523  
振替 00160-4-17013 TEL. 03-5272-0301  
ホームページ <http://www.fujiwara-shoten.co.jp/>

しばしば否定的な意味が含まれているが、skepticalの語源となったギリシヤ語は「注意深く見る (skeptomai)」という意味で、核心は「探究する」という点にある。つまり、物事の探究にはつねに懐疑の精神が底を流れているというところである。己れの心を世界に向けて開くには、たえず懐疑の精神を持つていなければならない。対象を疑うこと——どこまでも疑うとき、その精神態度は探究へと昇華する。探究と懐疑が表裏一体の関係にあるなら、哲学の歴史とは懐疑の歴史にほかならない。事実、古代ギリシヤではソクラテス以前からソフィストたちの対話論法が懐疑主義を胚胎していた。そうだとすれば、読書をめぐって懐疑の意味に想到した筆者の考察は結局、哲学のふりだしに戻ったようなものである。

懐疑し、対話すること。新しい読書共同体を創出する試みにおいても、古代ギリシヤの精神を忘れてはならない。

- (1) この「デジタル読書研究会」の成果は、二〇一五年四月二三日に東京で開催された「第十八回東アジア出版人会議」において報告された。本会議は中国・台湾・香港・韓国・日本の各地域の出版人および研究者が集い、書物を媒介とした東アジア圏の交流について議論することを目的としており、今年で発足十年目になる。筆者を含めた各国代表者の発表をウェブサイトで閲覧できるので、興味ある方は参照されたい。 <http://esp.cobyo.jp>
- (2) 『丸山眞男講義録第六冊』が読書研究会のテキストに指定されたのは、本書が「東アジア人文書100」の中に選定されているからである。「東アジア人文書100」は前注で紹介した東アジア出版人会議が百冊の人文書を選んだもので、各国間で翻訳出版し、国を超えた新たな出版共同体・読書共同体を具現することを目指している。すなわち、中国(二十六冊)、台湾・香港(二十二冊)、韓国(二十六冊)、日本(二十六冊)の計百冊である。東アジア出版人会議編『東アジア人文書100』(みすず書房、二〇一一)参照。

特集＊新しい読書のかたち

## 「専門外の専門書を読む」読書会——二世紀市民の「教養教育」を大学出版社が担う

鈴木哲也 (京都大学学術出版会)

### 専門外への無関心

少し前の話になるが、かの *Science* 誌上に興味深い論文が発表された。題して「電子出版と科学・学問の狭域化」(Evans 2008)。シカゴ大学社会学部の J・A エヴァンズは、一九四五年から二〇〇五年までの三四〇〇万本の学術論文データベースを用いて、論文の引用状況を調査した。それによれば、学術雑誌がオンライン化されて以降、明らかに「引用の幅が狭まった」というのである。引用の回数が落ちたということではない。以前なら、インパクトのある研究論文は、狭い専門分野を超えて他分野の学術雑誌に引用されることも多かったのが、今では狭義の専門家、いわば「同業者」の中でしか引用されないというのである。

いわゆる学問の高度化・細分化の弊害は、今日つとに指摘されるどころだが、この論文は、学術コミュニケーション

ンの急速な電子化のダークサイドを詳細なデータで白日に晒した。

そしてこの傾向は、学術世界に限ったことではない。今日、社会一般、中でもリーダーとして期待される人々の間で、自分の専門外の事柄への関心が薄れていることは、少々大袈裟に言えば、国力を瓦解させかねない重大な問題であると私は思っている。そして深刻なのは、こうした傾向を大学が助長しているということだ。一九九一年の大学設置基準改訂以降、教養部が廃止され、大学院重点化の名のもと、専門教育への特化が進んだ。この弊害については多くの識者が指摘するところだが、未だ改善されることはなく、現政権の教育再生実行会議は、大学の実務化・専門化をますます進めようという提言を行っている。

## Physics for Future Presidents——将来のリーダーのための物理学

リチャード・A・ミユラーという人がいる。彼がカリフォルニア大学バークレー校で一九九〇年代から二〇〇九年まで実践していたのが、数学のトレーニングを必要としない、現代物理学の理論や歴史についての講義だ。UCBの俊才達の間で好評を博したこの講義のタイトル Physics for Future Presidents が示しているように、政界に出ようが経済界で鎬を削ろうが、彼ら俊才の将来に必ず訪れるであろう意思決定の際に、法や政治や経済と言ったプロパールの知識ではない、専門外の自然科学の素養が決定的に重要になる、という信念から取り組まれた実践だ。

しかし、現代科学の基礎を身につけるべきは、こと「リーダー」とその卵だけではなからう。世間を騒がせたあのSTAP細胞問題は、この二〇年来、徐々に顕著になってきた学術研究と社会との捻れた関係を浮き彫りにした事件だった。大学設置基準の改正とそれに続く国公立大学・研究機関の法人化の中で、研究現場に市場的な競争原理が持ち込まれたこと、また急速に増大した若手研究者のポスト不足の二つは、研究現場に深刻な傾向を生んだ。一言で言えば、資金とポストの獲得のためにはなりふりは構わない。しかしもっと重大なのは、こうした現状に、一般社会がほとんど関心を持ってないでいたということだ。学問への

関心が一瞬でも高まるかに見えるのは、ノーベル賞云々というニュースが流れる一時のことで、たとえばそれらがどんな意味を持つのかといった本質的な事柄には、ほとんどの市民は関心を持たない。STAP細胞をめぐる熱狂と幻滅は、研究現場の歪みと、それに対する社会の関心の低さゆえの騒動だったとも言えるのではないだろうか。

それにしても様々な学会に参加して苦笑するのは、学会員同士（つまり広義には同業者の間の質疑で交わされる「私は専門でないので分かりませんが」という常套句である。知識とは、本来様々な分野で積み重ねられた知的営みの総体であるはずだが、今や学術成果の多くは、専門毎に切り分けられた「情報」として、単に量的に蓄積されるだけの、もしかしたら同業者でも相互参照が不可能なコードになってしまったかのような（鈴木・高瀬 近刊）。同業者間でさえ参照しないようになっては、一般市民の関心が急降下するのは当然だろう。そしてそうした互いへの無関心を社会に蔓延させている責任は、我々出版人にもあるのかも知れないのだ。

政治学者の片山杜秀氏は、あのウォーレス・ブロッカーが大改訂した大著 *How to Build a Habitable Planet*（邦題『生命の惑星』）の書評の中で、「科学系の新書を一〇〇冊読むぐらいの内容がある」と言っている（鎌田他 2015）。この本の日本語版は、六八五ページ六二〇〇円。その分厚さに一瞬怯むが、「文系読者でも一気読み必至」（書評のタイト



トークイベントの内容が収録された新聞紙面  
(2014年8月29日読売新聞朝刊)

うか。

### 「将来リーダーになる君へ——専門外の専門書を読む」 読書会

こうした原理的反省に立って、京都大学学術出版会では、京都大学附属図書館ラーニング commons の開館イベントとして、読売新聞活字文化推進会議の協力を得て、二〇一四年六月、佐藤文隆氏、山内昌之氏という日本を代表する碩学のお二人を話者に、「将来リーダーになる君へ——専門外の専門書を読む」と題したトークイベントを行い、そこに参加した学生に呼びかけて、「理系の学生には文系の本」(学術選書『歴史と事実』)を、「文系の学生には理系の本」(学術選書『アインシュタインの反乱と量子コンピュータ』)を読んでもらう、読書会を組織した。特に後者の読書会は、同書の著者でもある佐藤先生ご自身がコンピュータを務めるという贅沢なものである。

ルから)、そして、書店に山と並ぶ新書が束になっても敵わないというわけだ。逆に言えば、数多ある新書の類は、日々の新聞の解説記事を丁寧に見ていればだいたい同じ事が書いてあると言って良く、つまりは、現代日本のビョーキとも言って良い「わかり易く、親しみ易く」のなれの果て、本質的・本格的理解にはほど遠い、お茶の間の知識の使い回しに過ぎないのではないか。一方、米国の出版界には、今もこうした分厚い概説書が君臨し、そしてリーダー達はそれを読んでいる。我々はこれをどう考えるべきだろ

開始して早々驚いたのは、理系の学生の中には高校で日本史、世界史を学ばなかった者がいる、ということだ。反対に文系の学生には「物理未履修」が少なくない。いわゆる「高等学校必修科目未履修問題」と呼ばれるもので、大学受験に必要な科目を履修させず、必要科目を集中的に学習させる高校があるとは聞いていたが、実はつい身近に存在していたわけだ。それにしても、自分の国の歴史を知らない京大生がいる、ということ一つ取っても、由々



しき事態だろう。しかし希望が持てるのは、そうした学生たちが、歴史未履修、物理未履修を決して良しとしていないことだ。むしろ劣等感すら感じていて、最初は恐る恐る参加しながらも、回が進む毎に積極的に予習してくる。そして自信満々発表したところが、「うん、よく調べたな。しかし君は今アインシュタインのその議論を、標準理論の中で位置付けただけで、当時は標準理論なんて無かったんだよ」と佐藤先生に一言指摘された時の学生たちの反応は、掛け値無く写真に撮っておきたかったほどのものである。つまり、科学の歴史は、その業績の意味をその当時の枠組みで評価するのでなく今日の到達点から語ってしまうと、「勝ち組の歴史観」にしかないという戒めに、(中には他ならぬ歴史学を専門とする者もいる)文系の学生たちが、文字通り虚を突かれたように呆然としたのだ。こうした洗礼を受けた彼らが、将来、どんな研究生活、実業生活を送るのか、本当に楽しみみである。

半年の読書会が終わった打ち上げの夜、「僕らが京大に

来て一番面白い時間でした」と皆一様に言ってくれた、その言葉に象徴されるように、学生は、自分の専門に閉じこもることを決して良しとしていない。「教養」という言葉は古くさいかも知れないが、現代社会を主体的に生きるための本格的な基礎知識を若者は求めている。そして、我々学術版元は、新書のレベルを脱した、「専門外の専門」を身につけたいという要求に積極的に答えるべきなのだ。

#### 参考文献

Evans, J. A. (2008) *Electronic Publication and the Narrowing of Science and Scholarship*, *Science* 321 (18) JULY 2008 : 395-399.

鎌田浩毅・片山杜秀・山内昌之(2015)『文藝春秋』(五月号)鼎談

書評「文系読者でも一気読み必至の『宇宙通史』! 『生命の惑星ビッグバン』から人類までの地球の進化」(チャールズ・H・ラング ミューアー、ウォリー・ブロッカー著/宗林由樹訳)、<http://gekkan.bunshun.jp/articles/11283>

鈴木哲也・高瀬桃子(近刊)「知識か「情報」か——電子化時代の「読者」と知の在り方」『学術書を書く——効果的な成果公開のために』第1章、京都大学学術出版会。

### サービズ・ロジックによる現代マーケティング理論

●定価3780円

■市場の成熟に伴い交換価値から利用価値に焦点が当たる中で、サービズや顧客との関係性に注目する北欧学派の第一人者の論文集。

■「本物」が息づくサンフランシスコ近隣地区

●定価2970円

■サンフランシスコの、観光・街づくり施策の転換の歴史を現地調査。

### 流域ガバナンスと中国の環境政策

●定価4644円

■中国はその急激な経済成長に伴い、水資源管理の難しさが課題となっており。本書はその利用・政策・規制の現状をまとめている。

### 電力システム改革の検証

●定価2970円

■スマートな電力システム運営と、最終消費者へのメリットの実現を目指す、公益事業学会に設置された研究会の成果をまとめた。

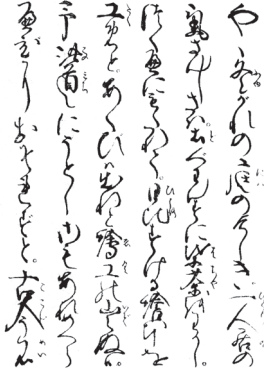
### 白桃書房

東京都千代田区外神田5-1-15  
TEL03-3836-4781 FAX03-3836-9370  
<http://www.hakutou.co.jp/>

# 命の形 一形の命

## 文字は

物事を美しく人に伝えるために  
手で書かれていた



毛筆で書かれていた文字が  
活字の出現で垂直・水平  
正方形の文字になった

天下泰平 國家安全

右初號 一字、付 代價承四十文

天下泰平 國家安全

右一號 全 承十九文

天下泰平 國家安全

右二號 全 承十二文

本木昌造の本邦  
初の活字見本  
(明治5年)

手書き文字と読む為の文字とが分離された

手書きの文字に  
その人の心が写されている  
現在私たちが書く文字は  
人に伝えるための  
記号でしかない

文字から身体性が奪われた

あ — あ — 安

かな  
漢字一文字全体から  
略字化した  
元來かなはあいまいを  
図形化したもの

## 漢字

絵を大胆に抽象化  
計り知れない造形上の苦心  
形が意味を暗示する  
審美的であり芸術的である

馬 — 馬

イ — 伊 — 伊

カナ  
漢字のふり仮名として  
漢字の一部から  
生まれた音節文字

砂・岩・泥などに書く  
記号や絵を指や棒で

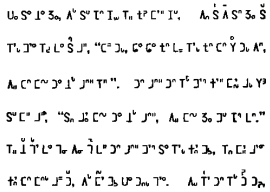
- 粘土にヘラで刻む 形を押す    パピルスに書く    葦ペン    羽根ペン    ボールペン
- 木に書く    紙に書く    筆で書く
- 石に刻む    金属に彫る    金属に鑄造する



キーボード

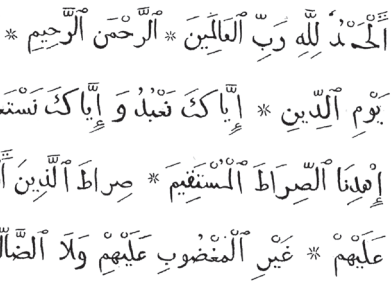
読み易さは紙の上だけの問題ではなく、  
元来、日本語は  
縦に書かれていた  
読むのも縦に馴染んでいる  
コンピューターが日本語を  
横割しにした

文字は筆記具と  
密接な関係があった  
新しい筆記具ができると  
新しい書体が生まれると  
言われてきたが  
果たしてパソコンでは?



ポラード文字 (1936年) 宣教師たちが、  
無文字社会で数多くの新しい文字を考案した。  
その書体には●▲■+など記号を  
組み合わせた文字が多く見られる  
短時間で作られた文字は概ねこの様になる

手書きの文字には呼吸感がある



イスラム圏の人たちは  
鞭がしなるような文字を使い  
鞭がしなるようにコーランを吟ずる  
インドのヒンズー教徒の人たちは  
骨太の垂直・水平の文字を使い  
大地から力強い生命力を感じる  
文字の直線曲線は  
その生活の中から湧き上がる

昔の人の毛筆の手紙などを見ると  
その人物の細かな  
息づかいまでもが伝わってくる  
パソコンで同じ文章を印字しても  
気持ちの半分も  
伝わらないのではないだろうか  
メールで恋心を送信するのは  
精神が退化していることになる

中垣信夫 | グラフィックデザイナー  
Nobuo NAKAGAKI | GraphicDesigner

Love letter は手書きにしましょう

# 大学出版部ニュース

表示価格は税別です。

## 二〇一五年度定時社員総会の開催

五月二十九日に港区・アジュール竹芝で協会の定時社員総会が開かれた。今回は広報担当理事ポストを新設して、ウェーブ運営を担う事務局と共同で戦略を練ること、八月の北京国際図書展には例年以上の人員派遣とプロモーションを展開することなどが決まった。恒例の懇親会では八十余名が集い、東京湾に臨むホテル一三階からはレインボーブリッジが灰色のぬか雨ににじんで見えた。

×月〇日


数年前から通勤ルートが全都二県にまたがっている関係で、電車に乗っている時間がふえた。はじめはネット記事をプリントして持ったが、これがかさばる紙数ほどの中身がない。小誌のように編集・レイアウトが施されたものは情報の量と質において格段にレベルが違うことがわかった。なので持ち歩くには出版社の小型PR誌が案外いい。薄手のA5判なら縦に折って上着の内ポケットにそろっと収まり、満員電車でも難なく読める。いま手元にある東京外国語大学出版会の『ピエリア』はラフ系で八〇頁だからポケットへという訳にはいかないが、「愛と書物」を特集に編んだ内容はなかなか読み応えがあった。一つ一つの記事

が研磨されており、見開き二頁に本文と文献案内がついた、ムダのない構成になっている。この小冊子に込められた書籍情報量たるや、軽く想像を超えて、さながら知の小宇宙の如くと言っても過言とはいえない。読後のひととき考えさせられた。最近の社会データは男女間に著しくセクシュアリティが不足している様子を報告している。「知恵の木の実は、永遠の生と引き換えに、アダムとイヴに互いへの愛のありようを教えたのです（ピエリア巻頭より）」という、この始源の愛のかたちは今どうなっているのか。憎悪や狂性といったもしかしたら人の恍惚をもたらすための装置であったかもしれないものが、自然に壊されかけている。そのために人は何を引き換えにしたというのか。どんな性愛ならばよいのか。だが、見ていくと、男という個体の性の現実はずでに女性と戦えなくなっているのである。大学関連では小誌のほか東京大学出版会の『UP』があるが、東北大学出版会東北大学出版会の『宙』、関西学院大学出版会『理』などもPR誌または会報として公刊されている。また、ジュンク堂書店の『書標』5月号へは黒田拓也理事長がご自身の豊富な読書歴にもとづく一文「『先生』と私」を寄せておられる。ぜひご一読を。

## 北海道大学出版会

- ▼ 卯和順・佐々木啓編著『新渡戸稲造に学ぶ―武士道・国際人・グローバル化』（四六判・二八四頁・一八〇〇円）新渡戸と「武士道」を深くやさしく解説。今日における「国際人」の意味を考える。
- ▼ 吉田文和著『脱原発と再生可能エネルギー―同時代への発言』（四六判・三六〇頁・三〇〇〇円）WEBRONZAの連載を再編。原発事故を経験した日本の今後を持続可能性という視点から検証する。
- ▼ 松浦啓一・長島裕二編著『毒魚の自然史―毒の謎を追う』（A5判・三三〇頁・三〇〇〇円）フグなど食べると中毒をすする魚、エイやミノサカゴなど棘や鱗に毒を持つ刺毒魚。これら「毒魚」の最新の研究成果を平易に解説する初めての本。
- ▼ 上田宏編著『三陸のサケ―復興のシンボル』（A5判・二〇八頁・二二〇〇円）三陸沿岸のサケ漁業および回帰性サケを創出するために行っている種々の技術開発・試験研究を紹介。
- ▼ 高橋英樹著『千島列島の植物』（B5判・六〇二頁・一二五〇〇円）北日本の植物相成立を解明する重要地点、千島列島の自然を理解する上での基本資料。

## 弘前大学出版会

- ▼ 李永俊・渥美公秀監修『東日本大震災からの復興（2）がんばるのだ』（A5判・二二二頁・三〇〇〇円）東日本大震災直後から野田村でボランティアとして復興支援活動に携わってきた著者らが、野田村の伝統行事をはじめとする、ゆたかな地域資源を紹介。三部作の第二弾。
- 
- ▼ 花田勝美編著『たのしく学べるミネラル講座』（B5判・九五頁・二四〇〇円）ミネラルの魅力について栄養学から臨床医学までの知識をたのしく学べる一冊。「亜鉛」をおいしく摂れるレシピも紹介。
- ▼ 弘前大学白神自然環境研究所編『白神学入門（改訂版）』（A4判・七六頁・一〇〇〇円）白神山地の過去と現在を知ること、今後の変化に備えるために重要であり、人と自然の共生の道を探る手がかりともなる。十三名の教員や専門家がそれぞれの分野について最新の研究成果をまじえながら、白神山地の魅力を多角的に紹介。

## 東北大学出版会

- ▼ 東北大学高度教養教育・学生支援機構編『高等教育ライブラリ9 研究倫理の確立を目指して―国際動向と日本の課題』（A5判・一九八頁・二〇〇〇円）「研究における誠実性」はどう扱われるべきなのか？ 責任ある学術研究のために不可欠な、倫理の確立と不正の防止・対応策。米・英・独・中・豪の事例を手がかりに、我が国の今後を模索する。
- ▼ 東北大学大学院文学研究科 講演・出版企画委員会編『人文社会科学講演シリーズⅧ 文化理解のキーワード』（四六判・二〇〇頁・二二〇〇円）文化人類学・宗教学・社会学・美学・哲学の五つの観点から、異文化の相互理解につながる発想・解釈・言葉を提示する。
- ▼ 阿部宏著『人文社会科学ライブラリー第4巻 言葉に心の声を聞く―印欧語・ソシュール・主観性』（四六判・一六〇頁・二〇〇〇円）言葉には、伝達される表面的な情報や辞書的な意味を超えて、それを話す人の心のありかたが反映される。「言葉の科学」の誕生から今日までの研究史の歩みをわかりやすく解説し、言葉における「心の発見」をたどる。

## 流通経済大学出版会

▼久塚謙一著『Webで学ぶスライド式自然環境論Ⅰ』（B5判・九二頁・一二〇〇円）「二世紀は環境の世紀」と言われて久しい。「地球温暖化」や「再生可能エネルギー」といった用語に触れる機会が増えており、最近では「水素社会」といった言葉も耳にするようになった。現代人は、地球の恩恵を忘れがちであるが、「生態系としての地球」を次の世代に引き継ぐ使命を負っている。自然環境に係る新しい情報を的確に理解して、自然と調和した社会経済活動に役立てることは、現代人の責務でもある。

本書は、文系の学生を対象とした自然環境に関する講義資料を、スライド式にわかりやすくまとめたものであるが、単なる知識の習得を目的としたものではなく、知識を問題解決に結びつけられる人材の輩出を狙いとしている。一人でも多くの学生が、環境・エネルギー・食料・水等を巡る国内外の問題に関心を持ち、Web情報を自ら活用して知識を深め、解決に向けた方策を考えて、実践できるレベルまで成長できるように工夫されている点が本書の特徴である。

## 聖学院大学出版会

▼阿久戸光晴著『専制と偏狭を永遠に除去するために―主権者であるあなたへ』（新書判・二〇二頁・一六〇〇円）

権力の前に立って、存在の尊厳のもとに「真に畏れる」心を持つ者にこそ、畏れる必要のないものを恐れぬ心を与えられる。主権者教育の重要性が今こそ認識されるべき時である。基本的人権、国民主権、地方自治、日本国憲法の意義を語り、真の自由の行使を呼びかける。

▼郡司篤晃著『安全という幻想―エイズ騒動から学ぶ』（四六判・二七四頁・二〇〇〇円）

なぜ日本の血友病患者にエイズ感染が広がり、そのことについての誤った責任追及が行われたのか。これまで明かされることのなかった真実と悲劇を繰り返さないための政策提言。エイズ政策の意思決定にかかわり、日本社会の危うさと病理を実感し続けてきた当事者が三〇年越しに綴る。渾身のノンフィクション。



## 聖徳大学出版会

▼塩美佐枝・古川寿子・川並珠緒・関口明子・羽生和夫著『幼児理解と一人ひとりに応じた指導』（B5判・一一六頁・一五〇〇円）

本書は幼児理解の意義から指導計画、実際の指導法、指導要録等の書き方に至るまで、幼児理解と指導について一冊でひととおり網羅した構成となっています。子ども一人ひとりを独立した、一つ的人格を持った人間として認めた上で、いかに彼らの人権に配慮した指導を行うかがテーマであり、「普段おとなしい幼児が、突然バスの中で同級生を席からどかさうとして喧嘩になったケース」「幼稚園の片付けの時間に、ある幼児が一人だけ三輪車を乗り回し始めたケース」など、経験抱負な執筆陣による具体的な事例を用いた解説を多く盛り込んでいるのが本書の特徴です。

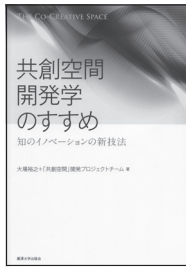


## 麗澤大学出版会

▼大場裕之＋「共創空間」開発プロジェクトチーム著『共創空間開発学のすすめ―知のイノベーションの新技法』（A5判・二八〇頁・二〇〇〇円）人は、好き・嫌いや、よい・悪いで価値判断をしてしまう。その判断が自分勝手になりやすく、その危なさになかなか気づかない。「共創マトリックス」により、その畏から逃れる（気づき）が与えられ、自己解放の機会を得ることができる。その技法とケーススタディを詳述。

### 〈目次〉

謝罪があれば「ゆるす」ことができるか  
／ロボットに心は必要か／マーケティング戦略上の合意形成をどのように進めるか／日本の女性は労働市場への参加を望んでいるのか／大学はグローバル視野に立った教育を提供しているか／経済的富の追及は人間を健康にするのか／他



## 慶應義塾大学出版会

▼井筒俊彦著『井筒俊彦全集 第十一巻 意味の構造』（四六判・四六四頁・六〇〇〇円）聖典「コラン」の倫理・道徳的概念を意味論的に読みとく不朽のコーラン論。充実の解題付き。月報はフゼイン・ナスル、宇野重規、島多代の各氏。  
▼小熊英二著『アウトテイクス―小熊英二論文集』（四六判・三七六頁・二六〇〇〇円）柳田国男、丸山眞男、大江健三郎等、日本思想史を彩る思想家の核心に迫り、近代日本社会の集合的な意識のありようを探る、小熊史学のエッセンス。

▼奥田博子著『被爆者はなぜ待てないか―核／原子力の戦後史』（四六判・四〇〇頁・二七〇〇円）被爆者とは誰か。被爆者は何を待つか。なぜ待てないのか。広島・長崎の惨禍を知る日本は、なぜ福島第一原発事故を引き起こしたのか。「原爆の記憶」の著者が放つ渾身の力作！  
▼工藤北斗著『工藤北斗の司法試験予備試験 最速の「合格り方」』（A5判・一七六頁・一六〇〇円）司法試験・予備試験はどのように勉強すればよいのか。どうすれば法曹への道が開かれるのか。その効果的・効率的な学習法を学ぶ！

## 産業能率大学出版部

▼井原久光著『改訂増補版 社会人のための社会学入門』（四六判・二〇〇〇円）社会学について、その歴史や理論を解説した入門書でありながら、社会学により興味をもってもらえるように、社会学の根本的な考え方である「社会を観察する学問」ということを中心に解説。

▼佐原秋生著『ワインとチーズ、おいしい食卓』（A5判・一九〇〇円）ワインとチーズ、食事をめぐって著者が自由に思いつくままに書き並べた楽しく美食学がわかる本。

▼小林昭文著『アクティブラーニング入門―アクティブラーニングが授業と生徒を変える』（四六判・一五〇〇円）生徒と先生の新しい授業のカタチである「アクティブラーニング」がわかる入門書。この本でアクティブラーニングの疑問を解決!!  
▼榎本博明著『モチベーション・マネジメント』（A5判・一八〇〇円）モチベーションについて、従来のスキルのなアプローチからではなく、心理的なアプローチから斬新に読み解くことで、本当のモチベーションの姿が見える。

## 専修大学出版局

▼専修大学図書館編『S1 リブレット006 日本語の風景―文字はどのように書かれてきたのか』(新書判・三〇四頁・九〇〇円) 漢字の伝来から、その後の日本の文字文化の流れを概観し、日本語の文字と表記の歴史を考察する。漢字から万葉仮名へ、漢文訓読が日本語に与えた影響、文字列展開方向について、漢字表の歴史など、書家、日本語学・国語施策の専門家が説き起こす。

仲川恭司「漢字の伝来から日本の文字文化へ」／斎藤達哉「日本語と文字―日本語はどのように記されてきたのか」／高田智和「漢文訓読と日本語」／屋名池誠「文字はどこを向いているか―日本語の文字の知られざる世界―」／氏原基余司「国語施策としての漢字表の意味―」▼『今村力三郎訴訟記録四十四 神兵隊事件 別巻三』(A5判・三〇四頁・五〇〇〇円) 昭和八年に起きたクーデター未遂事件の、軍部や右翼系革新勢力に関する資料集。本書では、昭和十六年の日付のある、司法省刑事局の作成による事件の「検事論告案」と「判決」が収載されている。全三巻の最後の巻。

## 大正大学出版会

▼大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎』①インド編／②中国・日本編(A5判・三二六頁／三三三頁・各一五〇〇円)

本書は、設立母体に天台宗・真言宗豊山派・真言宗智山派・浄土宗の四宗派をもつ大正大学の仏教学科が、仏教全般の思想・歴史を通仏教の視点から著したものである。第一篇「釈尊伝と初期仏教」、第二篇「大乘仏教」、第三篇「アジア仏教」、第四篇「日本仏教」からなり、各篇三〇項目に加え、三〇のコラムが配されている。

難解な教義や歴史情勢、あるいは地理(仏教伝播ルート)等についての理解を促す補助として図表や地図を活用している。また、視覚的な理解を助ける仏像や仏教遺跡、あるいは祖師像や仏教美術等の画像は、大正大学所蔵品を中心に掲載している。

本書の執筆陣は老手から若手までおよそ五〇人に及び、平成二八年に創立九〇周年を迎える大正大学の総力を結集した一冊だといえる。初学者はもちろん、すでに仏教を学んだ者にも必携の書である。

## 玉川大学出版部

▼デレック・ボック著／宮田由紀夫訳『アメリカの高等教育』(A5判・五二頁・五八〇〇円) 一九七一年から九年までハーバード大学の学長を務めた著者が、学部教育から大学院の教育・研究専門職大学院までを包括的に分析。科学技術分野などでの新発見、専門知識の遂行や将来のリーダーの養成に貢献する大学。その大学が果たす本質的な役割を問い、アメリカの高等教育が直面する問題や挑戦を考察する。おもに大学行政分野から、アメリカの高等教育の現状を説く。▼パトリシア・J・ガンボート編著／伊藤彰浩、橋本鉱市、阿曾沼明裕監訳『高等教育の社会学』(A5判・四八〇頁・五四〇〇円) アメリカ高等教育研究の第一人者といわれるパートン・クラークの一九七三年のレビュー論文を出発点とし、アメリカでの高等教育を対象とした社会的研究の動向と今後の課題や展望を示す。高等教育機会の不平等、カレッジ・インパクト、大学教授職などのその後の動向のほか、クラーク論文以後に登場してきた制度論、アカデミック・ワーク、多様性や政策研究の展開を整理する。



## 中央大学出版部

- ▼塩見英治・谷口洋志編著『現代リスク社会と3・11複合災害の経済分析』（三九〇〇円）少子高齢化、福祉社会への傾斜、社会資本の老朽化など現代社会が直面するリスクと東日本大震災に伴うリスクを対象に経済分析する。
- ▼小口好昭編著『会計と社会—ミクロ会計・メソ会計・マクロ会計の視点から』（五二〇〇円）会計は二一世紀の社会の発展にどう貢献すべきか。企業、地域、国民経済の視点から会計イノベーションと会計学の学問的再構築を探究する。
- ▼石井正敏他著『島と港の歴史学』（二七〇〇円）「島国日本」での島と港のもつ多様な歴史的意義を対馬、奥州津軽十三湊、平泉、出羽地方を例に物流の拠点情報発信・受信の場に注目した研究。
- ▼中野目善則著『二重危険の法理』（四二〇〇円）憲法三九条の二重危険禁止条項の考え方を解明し一事不再理論、既判力論に抜本的検討を加えた意欲的研究。
- ▼福島弘著『再審制度の研究』（二〇〇〇円）再審請求審における証拠開示の在り方、新鑑定の新規性・明白性等の諸問題を判例・学説から分析・整理した力作。

## 東京大学出版会

- ▼盛口満著『植物の描き方—自然観察の技法Ⅲ』（A5判・一八〇頁・二四〇〇円）何気なく見ている植物たちの「くらし」や「れきし」をスケッチからひもといてみよう。ゲッチョ先生三部作完結！
- ▼小倉義光著『日本の天気—その多様性とメカニズム』（A5判・四二六頁・四五〇〇円）日本の四季の美しさと裏腹に、その天気の移り変わりは時として暴走する。突発性豪雨、竜巻、洪水など、最新の気象学が解き明かす天気の謎。「一般気象学」の小倉先生による決定版。
- ▼岡本和夫・薩摩順吉・桂利行著『数学理性の音楽—自然と社会を貫く数学』（A5判・二〇八頁・二八〇〇円）数学って役に立つの？ 私たちの身近な世界と深く関わる数学へ、日本を代表する数学者による楽しさ満載のガイドブック。
- ▼ピーターJホッツェズ著・北潔監訳・BTSリングスビー・鹿角契訳『顧みられない熱帯病—グローバルヘルスへの挑戦』（A5判・三二〇頁・四二〇〇円）世界で十億人以上が苦しんでいる熱帯病に国民を超えた取り組みが始まっている。新しい国際貢献への基礎となる教科書。

## 東京電機大学出版局

- ▼デビッド・アダミー著／河東晴子、小林正明、阪上廣治、徳丸義博訳『電子戦の技術（通信電子戦編）』（A5判・三九四頁・五七〇〇円）
- 電子戦（Electronic Warfare）とは、電波・電磁波を使用した軍事活動の総称である。近年、情報通信技術が発展し、電磁波を使用する機器が増えたことにより、電子戦の重要性が増大している。「基礎編」「拡充編」に続く待望の第3巻。本書は、通信電子戦に焦点を当て、通信信号の概要、アンテナ、受信機、電波伝搬などを解説。さらに、電子戦支援、電子防護、電子攻撃などの応用も詳解した。また、アンテナと電波伝搬の迅速な計算に役立つ「計算尺」を付属。計算尺を用いて練習問題を解くことができ、「現場で使える実学性」を重視した。巻末には用語集も収録し、電波・電磁波の初学者のみならず、通信を専門とする読者にも分かりやすく解説した。

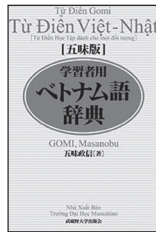


## 法政大学出版局

- ▼澤田直編『サルトル読本』(A5判・四三〇頁・三六〇〇円) 実存主義の哲学者のみならず、小説や戯曲の作家として、そして知識人として、多方面に活動したサルトルの全体像を明らかにする。
- ▼初瀬龍平＋松田哲編『人間存在の国際関係論』(A5判・三三四頁・四二〇〇円) 人間存在を担保する安全保障や平和のための国際制度は、変容の激流の中だけに構築されているのか。国家ではなく、一人の人間を起点にして、新たな関係構築の可能性に光をあてる。
- ▼牧野英二編『東アジアのカント哲学』(A5判・二六二頁・四五〇〇円) 日本・韓国・中国・台湾の思想界によるカントの翻訳紹介の歴史的文脈とその政治的意味、さらには相互的な影響関係を跡づける国際共同研究の成果。
- ▼K・ローゼンクランツ／寄川条路訳『日本国と日本人』(四六判・一八二頁・二〇〇〇円) 江戸幕末期、当時の西洋人が入手できた稀少な文献を用いて日本を概観し、「閉鎖商業国家」が世界史に登場してくる歴史的瞬間を記録したテクスト。若き森鷗外が評価した出色の日本論。

## 武蔵野大学出版会

- ▼五味政信著『五味版 学習者用ベトナム語辞典』(B6判・一一四四頁・八〇〇〇円) 見出し語八〇〇〇、用例二一〇〇〇。語法、成句、コラムも充実し、文型が自然に身につくように構成。学習を進める際に必要な情報、知りたい情報が紹介された、学習者のための辞書。



- ▼浅川公紀著『国際政治の構造と展開』(四六判・四七二頁・三三〇〇円) 国際政治システムの生成から展開、冷戦時代、冷戦後の秩序、外交政策の形成と実施、安全保障の追及など、国際政治のすべてがこの一冊に集約されている。
- ▼佐藤佳弘著『脱！ スマホのトラブル LINE フェイスブック ツイッター やって良いこと悪いこと』(四六判・一六〇頁・一二五〇円) 小中高校で「スマホの危険」や「正しい使い方」について数多く講演をしている著者が、トラブルの事例と対策を豊富なイラストで解説。

## 武蔵野美術大学出版局

- ▼富松保文訳・注『メルロ・ポンティ「眼と精神」を読む』(四六判・二六四頁・一七〇〇円) 「わからない」と嘆く学生のために、富松先生による「眼と精神」新訳奮闘が始まる。初めて現象学に向き合う学生のために簡潔にまとめられた「訳者まえがき」、大きな文字の翻訳本文には「脚注」を、さらに巻末にはこれでもかと「補注」を付して、デカルトの「精神」とセザンヌの「眼」を読み解く。カラーページを含む原著収録の作品図版七点に、新たに一四点を加えた美大版新訳。
- ▼志田陽子著『表現者のための憲法入門』(A5判・二八〇頁・二〇〇〇円) 「表現の自由とは」という問いをはじめに、保障される内容と国家の仕組みを憲法の条文にもとづき、豊富な事例で学ぶ入門書。国際社会のなかでの日本を強く意識し、表現者として憲法の扉を叩く。
- ▼高橋陽一編『造形ワークショップ入門』(A5判・一九二頁・一九〇〇円) 特別な技術や道具は一切不要。企画から実施まで、具体例によりファシリテーションの実践を提示。社会のなかのワークショップに目を向け、新しい役割を目指す。

## 明星大学出版部

▼黒岩誠・高下梓編著『みるみるわかる心理アセスメント―やわらか心理検査集』(A4判・九四頁・九〇〇円)

本書のコンセプトは……やさしい文章、わかってほしい内容、らくに読みとれる図表、かるく持ち運べる本……。心理検査の世界の入り口で楽しくページを開いてくれますように。



▼明星大学教職センター編『教員を目指す君たちに受けさせたい論文講座 教育の見方・考え方が変わる』(A5判・一六〇頁・一六〇〇円)

教員採用試験の論文攻略技術及び方策を実践的に示す指南書。採点者の評価の視点はどこにあるか、実際の出題例に即して留意点を考え、試験の対策事例も示している。

## 関東学院大学出版会

▼影山礼子著『ブゼル先生とバイブル・クラスの学生たち―近代日本の人間形成』(A5判・三三八頁・二四〇〇円)

キリスト教の外国人宣教師たちが近代日本の教育(思想)史上に開拓的役割を果たしたことはよく知られるが、彼らの努力とメッセージが、封建社会からの転換期にあつた近代日本の人間形成的課題(普遍的価値に向かつて開かれた人格的主体の養成)にどのような意味をもったのであろうか。

本書は、明治期に來日したキリスト教女性宣教師アニー・S・ブゼルによる旧制二高の学生を対象としたバイブル・クラスの教育が、栗原基、島地雷夢、内ヶ崎作三郎、小西重直、深田康算、吉野作造、小山東助、斉藤信策ら学生に与えた影響を探り、彼らの生涯にわたる交流を描く。



## 東海大学出版部

▼村山司・鈴木美和・吉岡基編著『続イルカ・クジラ学』(A5変型判・二〇八頁・二八〇〇円) 二〇〇二年刊行『イルカ・クジラ学』の続編。謎多きイルカ・クジラの生態を解明する。



▼菅原道夫著『比較ミツバチ学―ニホンミツバチとセイヨウミツバチ』(A5変型判・一六六頁・三二〇〇円) 二〇〇五年刊行『ミツバチ学』の姉妹書。ミツバチの行動生態・習性を豊富な写真や図を使って解説する。



▼日本昆虫科学連合編『昆虫科学読本―虫の目で見えた驚きの世界』(A5変型判・二九六頁・二九〇〇円) トンボ、バッタ、チョウ、クモ、テントウムシ……昆虫たちの巧みな技を科学の目で読み解く。



## 名古屋大学出版会

- ▼戸田山和久著『科学的实在論を擁護する』(A5判・三五二頁・三六〇〇円)  
科学的知識は信頼できるのか? 科学の核心にわだかまる問題を、知識のあり方を捉え直すことで解決する新たなスタンディングポイント。
- ▼奈良岡聰智著『対華二十一カ条要求とは何だったのか―第一次世界大戦と日中対立の原点』(A5判・四八八頁・五五〇〇円) 反日への決定的転換をもたらした世紀の失政の原因を詳細な実証により説明、百年を経てなお影を落とす外交交渉の全貌を捉えた渾身の成果。
- ▼R・D・エルドリッチ著/吉田真吾・中島琢磨訳『尖閣問題の起源―沖繩返還とアメリカの中立政策』(A5判・三七八頁・五五〇〇円) 東アジアを揺るがす危機の核心とは何か。尖閣問題を根源から理解するための必読の労作。
- ▼K・ポメラント著/川北稔監訳『大分岐―中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』(A5判・四五六頁・五五〇〇円) 驚くほど似ていた一つの世界。環境史をふまえ新しい歴史像を提示したグローバルヒストリーの代表作。

## 三重大学出版会

- ▼三和元著『日本のアルミニウム産業』(A5判・二九八頁・二九七〇円)  
日本のアルミニウム工業を産業論の立場から経済史的に分析し展望する。好著。
- 第1章 アルミニウム産業概論/第1節 世界のアルミニウム産業/第2節 日本のアルミニウム産業の特質
- 第2章 日本におけるアルミニウム産業の展開/第1節 戦前期から戦後復興期まで/第2節 高度成長と製錬業への新規参入
- 第3章 日本アルミニウム製錬業の衰退/第1節 外部環境の変化/第2節 アルミニウム製錬からの撤退
- 第4章 アルミニウム産業政策の評価/第1節 政府のアルミニウム産業政策/第2節 アルミニウム製錬政策の影響/第3節 アルミ製錬撤退の影響
- 第5章 海外製錬の展開―国際分業体制/第1節 資源の開発輸入/第2節 アルミニウム地金の開発輸入/第3節 ナショナルプロジェクト/第4節 開発輸入の役割
- 終章 アルミニウム産業の将来展望

## 京都大学学術出版会

- ▼高橋康夫著『海の「京都」―日本琉球都市史研究』(菊判・一二〇〇頁・一一三〇〇円) 堅牢な都市壁をもたず周辺の自然と連続する固有の都市空間を形成した京都と首里。大陸から隔てられた二つの「京都」の空間構造を読み解き、その都市像を明らかにする。
- ▼川井秀一・藤田正勝・池田裕一編『総合生存学―グローバル・リーダーのために』(A5判・四二〇頁・二八〇〇円)  
例えば国際紛争の解決や、開発と環境保護が対立する現場に飛び込んだ若者が、現場で最も適当な解を見つけるには何が必要なのか? 基礎科学から国際政治まで厚い教養が支える実践力を目指す知の挑戦。
- ▼岡本正明著『暴力と適応の政治学―インドネシアの民主化と地方政治の安定』(菊判・三〇〇頁・三六〇〇円) インドネシアの暴力集団ジャワラ。スハルト独裁の契機となったり・30事件を通じて、権威主義体制の礎となり、今また、民主化の波に乗って、地方政治の新しい主役となる。その軌跡と実態を、身体を張ったフィールドワークで赤裸々にする。

## 大阪経済法科大学出版部

▼豊下櫛彦、澤野義一、魏栢良編著『北東アジアの平和構築―緊張緩和と信頼構築のロードマップ』（A5判・三〇〇頁・二五〇〇円）

本書は、信頼醸成に基づく恒久平和をいかにして構築するかについて統一的な提言を必ずしも行うものではないが、当該平和構築に関する重要なテーマを様々なアプローチにより考察している。本書が、今後さらなる争点となる、集団的自衛権行使容認等を含む安保法制整備、あるいは日本と中国・韓国との領土問題や歴史認識に関する問題を考える一助になれば幸いである。（はしがきより）

第1部 北東アジア情勢と平和構築の課題／第1章 北東アジアの構造変容と日本外交（豊下櫛彦）／第2章 北東アジアの平和構築（魏栢良）他

第2部 平和と安全保障における自衛権論の検討／第6章 集団的自衛権と永世中立（澤野義一）他

第3部 市民による平和と人権の推進／第8章 信頼醸成のためのアクターとしての市民社会のネットワーク（梅田章二）他

## 大阪大学出版会

▼ギュスターヴ・フロバール著／柏木加代子訳『心の城』（六〇〇〇円）フロバールが一八六三年に脱稿、一八八〇年に文芸雑誌に連載された戯曲の本邦初の全訳と解説。舞台挿絵入り。▼小川敦著『多言語社会ルルクセンブルクの国民意識と言語―第二次世界大戦後から1984年の言語法、そして現代』（四九〇〇円）土着語が国民意識の醸成とともに整備され公用語となった歴史を分析する。言語イデオロギーはどのように言説化、政治化されたか。▼稲木昭子・沖田知子著『アリスのことは学―不思議の国のプリズム』（二七〇〇円）『不思議の国のアリス』にこめられた遊び心や面白さを、言葉にこだわって読み解く。▼青天目信・伊藤雅之編著『レット症候群診療ガイドブック』（三二〇〇円）できるだけ早く診断し、療育を含めた対応法をプログラムするために。厚生労働省レット症候群研究班の最新成果。▼生田美智子編『女たちの満洲―多民族空間を生きて』（二二〇〇円）満洲国の五族とロシアの女たちはどのように生きたのか。歴史に埋もれた満洲国の女性たちの足跡を発掘する。

## 関西大学出版部

▼岩見和彦編著『続・青春の変貌』（四六判・二五〇〇円）青春とは何だろうか。それは誰にでも訪れる青年期であると同時に、その時代の世相を映し出す鏡でもある。本書は過去から現代まで五〇年間に亘る様々な青春の群像を、現代社会論の視点で綴った文化社会学論集である。▼小田桐奈美著『ポスト・ソヴィエト時代の「国家語」―国家建設期のキルギス共和国における言語と社会』（A5判・三五〇〇円）旧ソ連諸国において、現在も「国家語」の整備・推進が進行している。転換期の社会で言語はどのような役割を果たすのか。本書では、中央アジアのキルギス共和国における言語と社会の様相を、現地調査に基づき明らかにする。▼カイト由利子監修／古川智樹編著『留学生教育の最新潮流―関西大学留学生別科の実践と研究』（A5判・二五〇〇円）本書は、二〇一二年に開設した関西大学留学生別科におけるICTを活用した教育実践と研究の報告である。ICTツールは、留学生の学習・生活の基盤となり得るのか。教育のグローバル化に伴う様々な課題への取り組みを紹介する。

## 関西学院大学出版会

- ▼大東和重著『台南文学―日本統治期台湾・台南の日本人作家群像』（四六判・五一〇頁・三四〇〇円）
- ▼国際連合広報局著／八森充翻訳／関西学院大学総合政策学部発行『国際連合の基礎知識 2014年版』（A5変形・四五〇頁・二六〇〇円）
- ▼市川顕編著『EUの社会経済と産業』（四六判・二九四頁・二〇〇〇円）
- ▼久野武著『環境漫才の世界―Hキョーシユの環境行政時評』（A5判・二二四頁・二〇〇〇円）
- ▼魏栢良著『原子力商業利用の国際管理―原子力発電所を中心に』（A5判・三四〇頁・三〇〇〇円）
- ▼岡田憲夫著『ひとりから始める事起こしのおすすめ―地域（マチ）復興のためのゼロからの挑戦と実践システム理論鳥取県智頭町三〇年の地域経営モデル』（A5判・二六四頁・二四〇〇円）
- ▼森田雅也編著『島国文化と異文化遭遇―海洋世界が育んだ孤立と共生』（A5判・二五四頁・三二〇〇円）
- ▼島本克彦著『簿記教育上の諸問題』（A5判・二六二頁・二八〇〇円）

## 広島大学出版会

- ▼木下正俊著『わが国の金融システム改革と法制整備』（A5判・四〇九頁・三四〇〇円）
- わが国は一九九〇年代後半以降、「護送船団方式」からの転換とバブル崩壊に伴う銀行不良債権問題の解決を中心とする金融システム改革を推進してきた。そして私たちは今、どのような地平に立っているのだろうか。わが国の金融システム改革を金融の効率化・高度化・融合化・安定化の観点から多面的に捉え、改革を実現する法的インフラ整備の取組みを検証した渾身の書。
- ▼木原成一郎編著『体育授業の目標と評価』（A5判・二五五頁・一三〇〇円）
- 二〇〇一年の指導要録改訂で学習評価の制度として採用された「目標に準拠した評価」は、教師の指導と子どもの学びを振り返るために有効な情報を提供する役割を期待されている。本書は、教師が体育の授業を改善しようとする時に求められる体育の目標と評価とはどのようなものか、授業研究の成果に基づいて提案をめざす教師必読。

## 九州大学出版会

- ▼徳野貞雄監修／牧野厚史・松本貴文編『暮らしの視点からの地方再生―地域と生活の社会学』（A5判・二七〇〇円）
- 農と食、結婚、家族、福祉、交通など地方の現実と可能性を問う論集。「地方消滅」論に対する反論。
- ▼九州大学大学院アーバンデザイン学コース編『都市理解のワークショップ―商店街から都市を読む』（B5判変形・二七〇〇円）様々な分野の論説と、商店街の活性化という課題に対するフィールドワークの記録から、都市デザインをいかに教え、学ぶべきかを考える。
- ▼北九州市立大学監修・眞鍋和博『シリーズ 北九大の挑戦2「自ら学ぶ大学」の秘密―地域課題にホンキで取り組む4年間』（B5判・一八〇〇円）地域におけるこれからの大学のあり方について実際の取り組みを中心にまとめた。
- ▼姜益俊・松尾正弘『社会人になる前に読んでおきたい! ビジネスコミュニケーション』（四六判・一四〇〇円）組織の中で仕事をする上で最も重要なスキル、コミュニケーション能力を、豊富な経験と軽妙な語り口で伝授する。

# 一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

【50音順】2015年6月30日現在

(株)朝日新聞社	〒104-8011	東京都中央区築地5-3-2	TEL 03-5540-7749
亜細亜印刷(株)	〒380-0804	長野県長野市大字三輪荒屋1154	TEL 026-243-4858
(株)アペル社	〒162-0825	東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408	TEL 03-3235-1360
尼崎印刷(株)	〒661-0975	兵庫県尼崎市下坂部3-9-20	TEL 06-6494-1122
(株)ALE	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階	TEL 03-5652-8627
岡子製紙(株)	〒104-0061	東京都中央区銀座4-7-5	TEL 03-3563-7072
岡本出版発送(株)	〒353-0001	埼玉県志木市上宗岡3-16-2	TEL 048-471-6291
カタス・コミュニケーションズ(株)	〒100-0004	東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル10階	TEL 03-5542-1950
(株)加藤文明社印刷所	〒101-0061	東京都千代田区三崎町3-6-9 NEX水道橋ビル	TEL 03-3261-8281
城島印刷(株)	〒810-0012	福岡県福岡市中央区白金2-9-6	TEL 092-531-7102
(株)紀伊國屋書店	〒153-8504	東京都目黒区下目黒3-7-10	TEL 03-6910-0510
(株)クイックス	〒102-0073	東京都千代田区九段北4-1-13 ニュー原鉄ビル5F	TEL 03-3221-9150
(株)糸川印刷	〒112-0012	東京都文京区大塚6-9-7	TEL 03-3943-9811
瞰クムソノイタテクティブジャパン	〒101-0021	東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F	TEL 03-3525-8001
港北出版印刷(株)	〒150-0002	東京都渋谷区渋谷2-7-7	TEL 03-5466-2201
三松堂印刷(株)	〒101-0065	東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階	TEL 03-6823-5360
三美印刷(株)	〒116-0013	東京都荒川区西日暮里5-9-8	TEL 03-3803-3131
三立工芸(株)	〒101-0061	東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F	TEL 03-3261-5171
三和印刷(株)	〒381-2226	長野県長野市川中島町今井薬師堂1822-1	TEL 026-285-2300
信濃印刷(株)	〒102-0072	東京都千代田区飯田橋4-1-11	TEL 03-3237-3601
(株)渋谷文泉閣	〒380-0804	長野県長野市三輪荒屋1196-7	TEL 026-244-7185
(株)眞興社	〒150-0033	東京都渋谷区猿樂町19-2	TEL 03-3462-1181
新日本印刷(株)	〒162-0801	東京都新宿区山吹町342	TEL 03-3269-3611
(株)精興社	〒101-0054	東京都千代田区神田錦町3-9	TEL 03-3293-3021
創栄図書印刷(株)	〒604-0812	京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766	TEL 075-255-2288
大同印刷(株)	〒849-0902	佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20	TEL 0952-71-8550
ダイニック(株)	〒105-0004	東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル	TEL 03-5402-1811
(株)太平洋社	〒140-0002	東京都品川区東品川1-6-16	TEL 03-3474-2821
(株)宝紙業(株)	〒501-0431	岐阜県本巣郡北方町北方148-1	TEL 058-324-2111
(株)竹尾	〒102-0072	東京都千代田区飯田橋3-7-14	TEL 03-3261-5335
宗教法人天然寺	〒101-0054	東京都千代田区神田錦町3-12-6	TEL 03-3292-3617
(株)東京弘報社	〒204-0021	東京都清瀬市元町1-4-5-711	TEL 0424-92-4359
(株)とうこう・あい	〒101-0051	東京都千代田区神田保保町1-34	TEL 03-3291-1771
東光整版印刷(株)	〒104-0061	東京都中央区銀座8-11-11	TEL 03-3571-6000
図トーヨー企画	〒135-0006	東京都江東区常磐2-12-15	TEL 03-3632-0801
図書印刷(株)	〒602-0923	京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7	TEL 075-411-8288
(株)日本経済新聞社	〒114-0001	東京都北区東十条3-10-36	TEL 03-5843-9700
萩原印刷(株)	〒100-8066	東京都千代田区大手町1-3-7	TEL 03-5255-2198
(株)博報堂	〒112-0004	東京都文京区後楽2-21-12	TEL 03-3811-4272
藤原印刷(株)	〒107-6322	東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F	TEL 03-6441-6711
(株)平文社	〒101-0052	東京都千代田区神田小川町2-4-5	TEL 03-3291-0191
(株)堀内印刷所	〒170-0005	東京都豊島区南大塚2-35-7	TEL 03-3944-0301
(株)毎日新聞社	〒335-0034	埼玉県戸田市笹目3-11-5	TEL 048-422-0029
誠製本(株)	〒100-8051	東京都千代田区一ツ橋1-1-1	TEL 03-3212-3340
(株)製文舎	〒174-0042	東京都板橋区東坂下1-19-5	TEL 03-3967-3952
(株)読売新聞東京本社	〒532-0012	大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31	TEL 06-6304-9325
渡辺印刷(株)	〒100-8055	東京都千代田区大手町1-7-1	TEL 03-3242-1111
	〒101-0035	東京都千代田区神田紺屋町11 岩田ビル5F	TEL 03-3251-7571
	〒152-0031	東京都目黒区中根2-7-1	TEL 03-3718-2161

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同下さり、ご支援頂いている各社様をご紹介させていただきます。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

## 大学出版部協会・ブックレット

大学出版部協会 発行／東京大学出版会 発売【2014年6月刊】

2013年6月から4回にわたり開催された大学出版部協会創立50周年記念連続シンポジウム「新しい社会を拓く大学の力」の成果より、2点をブックレット化しました。 日本生命財団学術書出版助成図書



座小田豊 ごこたゆたか（東北大学大学院文学研究科教授）

田中克 たなかまさる（京都大学名誉教授）

川崎一朗 かわさきいちろう（京都大学名誉教授）

### 防災と復興の知 3・11以後を生きる

A5判・80頁／定価（本体1,000円＋税）ISBN978-4-13-003150-9

列島沿岸を巨大堤防で覆う？——これまで通りの高度技術をふりかざすだけで、はたして本当に強靱な社会をつくることができるのか。哲学・生態学・地震学による対話を通して、自然と社会を千年の単位で見直し、再生のための知のあり方を探る。

#### 〈主要目次〉

第一章「ふるさと」の根源的な力と想像力の可能性（座小田豊）／第二章 森里海の連環から震災と防災を考える（田中克）／第三章 災害社会——本当に強い社会とは（川崎一朗）／終章「ふるさと」から「ふるさと」へ（座小田豊）



中村哲之 なかむらのりゆき（東洋学園大学人間科学部専任講師）

渡辺茂 わたなべしげる（慶應義塾大学名誉教授）

開一夫 ひらきかずお（東京大学大学院総合文化研究科教授）

藤田和生 ふじたかずお（京都大学大学院文学研究科教授）

### 心の多様性 脳は世界をいかに捉えているか

A5判・80頁／定価（本体1,000円＋税）ISBN978-4-13-003151-6

トリ、ヒト、それぞれが視る世界は同じものではない。赤ちゃんはいつごろから自分を自分と認識するのか。心の働きの多様性を比較認知科学・発達認知科学の視点からわかりやすく解き明かす。

#### 〈主要目次〉

第一章 トリの「視る」世界——動物の錯視と心（中村哲之）／第二章 ヒト型脳とハト型脳（渡辺茂）／第三章 脳は世界をいかに捉えているか（開一夫）／第四章 討論——心の多様性と現代（藤田和生×中村哲之・渡辺茂・開一夫）／あとがき（藤田和生）



# ナチュラリストの時間

大学出版部協会編 A5判/160頁/定価(本体1,600円+税)

## 自然史へ誘う：博物誌から生態学、多様性生物学、ゲノムサイエンス、そして21世紀のナチュラリストを愉しむ

### I. Prologue of Natural History

- 第1話 自然を記録すること……斎藤靖二  
第2話 自然史と本……青木淳一  
第3話 日本のナチュラリスト……岩槻邦男  
コラム① 動物写真の世界

### II. History of Nature

- 第4話 ノーチラス号が遭遇した大ダコ……奥谷喬司  
第5話 マリー・ストープスの2つの顔：日本の植物化石研究事始め……矢島道子  
第6話 京都の語り部：深泥池……竹門康弘  
第7話 遺跡の土に秘められた情報……松井 章  
コラム② ききみみずきん  
第8話 遺体で動物学を埋め尽くす……遠藤秀紀  
第9話 ダーウィンと魚類学：人々と時代と魚たち……武藤文人  
第10話 日本の小鳥飼育文化と鳴き合わせ……小山幸子

### III. Diversity of Nature

- 第11話 サクラソウとマルハナバチ……鷺谷いづみ  
第12話 日本列島に人間と野生動物との共生の歴史をさぐる……湯本貴和  
第13話 琉球列島の自然史……太田英利  
第14話 マンボウと標本……松浦啓一  
第15話 分類学事始め：タクソン、タイプ、名前……馬渡駿輔  
コラム③ サルにノミはいない？ 幻の定説

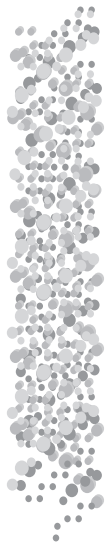
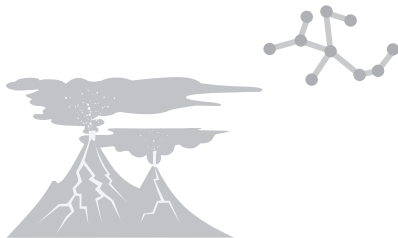
### IV. Story of Nature

- 第16話 クマ大量出沒の謎……大井 徹  
第17話 ふしぎの国のアリ巢……丸山宗利  
第18話 現代によみがえったインカ時代の狩猟……山本紀夫  
第19話 子どもたちと自然教室：干潟で役立つ本や教材……古賀庸憲  
第20話 熱帯雨林の林冠アリ……市岡孝朗  
第21話 殿様の自然史……松岡明子  
第22話 幻のロバと男たち……木村李花子  
第23話 食の博物誌：多民族国家のハイ・ティー……周 達生  
コラム④ アリジゴクの自然史

### V. Epilogue of Natural History

- 第24話 遺伝子を通じた動物との対話……村山美穂  
第25話 ゲノム時代のナチュラリスト……西田 睦  
コラム⑤ 小・中学校図書館は今

特別寄稿：「具体的な人間の日常性」と抽象化された「専門性・科学性」……久塚純一  
自然史文献リスト



書店で本が見つけれない…そんなときは!



全国書店  
ネットワーク

いーほん

検索

-hon <http://www.e-hon.ne.jp>



ネットで注文して、お近くの本屋さんで受け取れます。



入会金・年会費  
無料

会員登録後、すぐ注文が可能となります



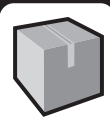
在庫100万点

専門書からテキストまで、充実のラインナップ。卸会社運営サイトならではの圧倒的な在庫量



書店受取なら  
送料手数料無料

書店での受け取りは、冊数・金額に関係なく送料は完全無料



プライバシー厳守の  
完全個別梱包

中身を人に知られない、安心の個別梱包でお届けします



さまざまなデバイス  
から注文が可能

PCはもちろん、スマートフォン、携帯電話から注文が可能



新刊・新譜の  
予約も充実

書籍の新刊、CD・DVDの新譜も毎日更新してご案内します



宅配利用で  
ポイント還元

宅配でのご購入は、100円につき1ptポイントが付きます



雑誌バックナンバー  
も充実

NHK テキストから学術雑誌のバックナンバーも充実



メールサービスで  
タイムリーな情報を配信

メールニュースより、新刊情報やフェア情報などをお知らせします



好きなジャンルの  
新刊をメールで通知

新刊パトロール機能により、お気に入りの作家やジャンルの新刊情報を配信



医療系電子コンテンツ  
はDigital e-hon

姉妹サイト「Digital e-hon」は、文芸書から医学文献まで充実の品揃え



お気に入り登録で  
好きなときに注文可能

気になる商品はクリック1つで簡単登録。注文する際に便利です

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町 6-24 株式会社トーハン

## 金沢医科大学出版局

発売 = 紀伊屋書店 ☎03-3354-0131 (代)

### 6日間で学ぶ 医学生・初期研修医のための 呼吸器外科画像問題集

佐川 元保 編集

国家試験レベルの画像読影力を短期間で獲得できる構成となっている。「問題と解答・解説」形式を主とし、繰り返し学習することで成果をあげる。

A4判, 140頁, 定価: 本体 2,000円 + 税

解剖学者がみた

### ミケランジェロ

篠原 治道 著

苛酷な幼児体験で「傷ついた脳」が天才ミケランジェロを生み出した。人体構造のプロフェッショナルが彼の彫刻に秘められた真実に迫る。

A5判, 273頁, 定価: 本体 1,800円 + 税

## 金沢医科大学出版局

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1

☎076-286-2211 (代) <http://www.kanazawa-med.ac.jp>

## 立教大学出版会

<http://www.rikkyo.ac.jp/u-press/>

### ルワンダ・ジェノサイド 生存者の証言

憎しみから  
赦しと和解へ

米川正子 訳 犠牲者80万人ともいわれるルワンダ・ジェノサイド。もう悲劇を繰り返さないために。 A5判上製 三四四頁 四〇〇〇円

### 昭和一〇年代の文学場を考える

新人・太宰治・戦争文学  
松本和也 著 昭和一〇年代の文学場について問題意識をめぐり、さまざまな角度からの考察・議論をクロス。 A5判上製 五四〇頁 六八〇〇円

### 消費社会の新潮流

ニユルエツ  
リソクへの対応  
間々田孝夫 編 パブル崩壊以来、大きく変化した消費社会。多角的分析と理論研究により、現代消費社会の新局面を探る。 A5判上製 一八二頁 三三〇〇円

(表示価格は税別です)

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

発売 \* 有斐閣

TEL03 (3265) 6811 FAX03 (3262) 8035

## 東京学芸大学出版会

### 小学校社会科を教える本

大石学・上野和彦・椿真智子 編

地球規模で生命と環境問題が激化している今、次世代をなす日本の子どもたちに考えさせるべきことが満載されています。

B5判 180頁 1600円 + 税

### 「東アジアの教師」の今

東アジア教員養成国際共同研究プロジェクト 編

日本、中国、韓国、台湾という東アジア諸国・地域の、それぞれの学校教員の養成法を比較するための本。

A5判 256頁 2400円 + 税

### 分子生物学者、小学校長になる!

——朝礼と学校だよりで伝えたかったこと

飯田秀利 著

身近な話題を用いながら、子どもたちに人間の本質や科学的に考えることの楽しさについて、わかりやすく語りかけています。

四六判 184頁 1200円 + 税

## 北米研究入門

### 「ナショナル」を問う直す

上智大学新書006

上智大学アメリカ・カナダ研究所「編」定価10400円 + 税  
アメリカ合衆国とカナダを、国境という境界を越えた一つの地域として捉え、その内外の比較・関係性から新たな視点で北米を「物語る」本邦初の試み。

## チャーチル——日本の友人

林 幹人「著」

定価2500円 + 税

激動の二十世紀を縦横に生き切った偉大な軍人・政治家にして、ノーベル文学賞も受賞した、第二次世界大戦時の英国首相、ウィンストン・チャーチル。刑法学者が、世界の権力の在り方に迫りつつ、その私生活にも焦点を当て、新しいチャーチル像を描き出す。

〈発行〉Sophia University Press 上智大学出版  
<http://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/publication/SUP>

〈発売・注文〉〒136-8575 東京都江東区新木場1-18-11  
ぎょうせい TEL:0120-953-431 FAX:0120-953-495

GIP

[TEL] 042-329-7797 [FAX] 042-329-7798  
[HP] <http://www.u-gakugei.ac.jp/upress>



(撮影：阿部卓也)

表紙写真：お茶の水女子大学附属図書館での「学生協働ワークショップin東京2014」の様子(東京大学新図書館計画ACSの学生ほか)

このワークショップでは、図書館で活動する都内10の学生団体が活動報告やディスカッションをおこなった。近年の読書環境の変化や、図書館の役割の多様化のなかで、大学図書館では学生同士や学生と教職員が共に活動する「学生協働」の動きが広がっている。

大学出版 103号(2015年夏)  
2015年7月1日発行  
頒価 100円(〒共)

発行所：一般社団法人 大学出版部協会  
ISSN 0913-3305  
振替 00170-8-389131

〒102-0073  
東京都千代田区九段北1丁目14番13号  
メゾン 萬六403号室  
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092  
E-mail: mail@ajup-net.com  
URL: <http://www.ajup-net.com/>

表紙デザイン：阿部卓也

## 一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覽

### ■ 北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目  
北海道大学構内  
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

### ■ 弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地  
弘前大学附属図書館内  
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

### ■ 東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1  
東北大学構内  
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

### ■ 流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120  
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

### ■ 聖学院大学出版会

〒362-8585 上尾市戸崎1-1  
TEL 048-725-9801 FAX 048-725-0324

### ■ 聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550  
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

### ■ 麗澤大学出版会

〒277-6886 柏市光ヶ丘2-1-1  
TEL 04-7173-3320 FAX 04-7173-3154

### ■ 慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30  
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

### ■ 産業能率大学出版部

〒158-8630 世田谷区等々力6-39-15  
TEL 03-6432-2536 FAX 03-6432-2537

### ■ 専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3  
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

### ■ 大正大学出版会

〒170-8470 豊島区西巣鴨3-20-1  
TEL 03-3918-7311 FAX 03-5394-3038

### ■ 玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1  
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

### ■ 中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1  
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

### ■ 東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29  
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

### ■ 東京電機大学出版局

〒101-0047 千代田区内神田1-14-8  
TEL 03-5280-3433 FAX 03-5280-3563

### ■ 法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3  
法政大学九段校舎内  
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

### ■ 武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20  
武蔵野大学構内  
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

### ■ 武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7  
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

### ■ 明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1  
TEL 042-591-9979 FAX 042-593-0192

### ■ 関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1  
TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

### ■ 東海大学出版部

〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35  
東海大学同窓会館3階  
TEL 0463-79-3921 FAX 0463-69-5087

### ■ 名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町1  
名古屋大学構内  
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

### ■ 三重大学出版会

〒514-8507 津市江戸橋2-174  
三重大学附属病院5階  
TEL 059-232-1356 FAX 059-232-1356

### ■ 京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69  
京都大学吉田南構内  
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

### ■ 大阪経済法科大学出版部

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10  
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

### ■ 大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7  
大阪大学ウエストフロント  
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

### ■ 関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35  
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

### ■ 関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155  
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-9592

### ■ 広島大学出版会

〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2  
TEL 082-424-6226 FAX 082-424-6211

### ■ 九州大学出版会

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34  
九州大学産学官連携イノベーションプラザ305  
TEL 092-833-9150 FAX 092-833-9160

### ■ 東京農業大学出版会(休会)

〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1  
TEL 03-5477-2666 FAX 03-5477-2747